

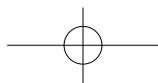
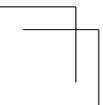
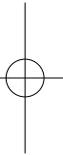
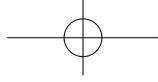
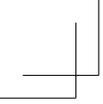
戸田市文化財調査報告 XXX

前谷遺跡 VIII

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県戸田市教育委員会



はじめに

埼玉県南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口13万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の急激な変化とともに社会的、文化的な環境も急速に変わってきておりますが、古来より受け継がれてきた伝統や文化を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護及び活用が求められています。

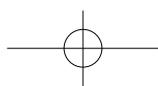
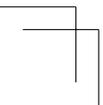
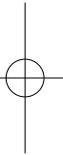
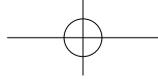
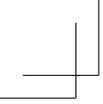
今回報告いたします前谷遺跡第8次発掘調査は、共同住宅建設に伴い、令和2年に緊急発掘調査が行われたものです。

この発掘調査により、弥生時代から近世にかけての生活の痕跡を多数検出し、戸田市内の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を得ることができ、地域の遺跡の性格の一端を明らかにすることができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、御尽力、御協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

令和2年12月

戸田市教育委員会
教育長 戸ヶ崎 勤



例 言

1. 本書は埼玉県戸田市上戸田二丁目 27 番 5 に所在する前谷遺跡第 8 次発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、個人事業者による共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会（担当者：今井源吾）が株式会社東京航業研究所の支援を受けて実施した。また、整理作業及び報告書作成作業は、戸田市教育委員会が株式会社東京航業研究所の支援を受けて実施した。
3. 発掘調査は、令和 2 年 5 月 8 日から令和 2 年 6 月 12 日まで行い、整理作業・報告書作成作業は令和 2 年 6 月 15 日から令和 2 年 12 月 25 日まで株式会社東京航業研究所で実施した。
4. 発掘調査から報告書作成までの事業費は、全て事業者の負担による。
5. 本書は埼玉県戸田市教育委員会が刊行した。
6. 本書は、今井源吾が監修した。編集は諸星良一（株式会社東京航業研究所）が行った。執筆は第 1 章第 2 節、第 2 章第 4 節、第 3 章は諸星良一が、遺物観察表は小森暁生が、その他の部分は今井源吾が行った。
7. 発掘現場での記録写真と出土遺物の撮影は株式会社東京航業研究所が行った。
8. 本書の著作権は、市教委が保有する。発掘調査成果の周知、活用、学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製し、利用できるものとする。
9. 出土遺物及び発掘調査の各種データ等は全て市教委が保管し、活用を図るものとする。
10. 本事業は以下の組織により実施した。

【埼玉県戸田市教育委員会】

教 育 長 戸ヶ崎 勤
教 育 部 長 山上 睦只
次 長 星野 正義
生涯学習課長 福田 忠史
関根 晃
生涯学習課主幹 細井 薫子
生涯学習課主任 吉田 幸一
生涯学習課主事補 今井 源吾（調査担当者）

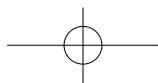
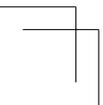
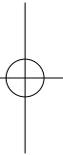
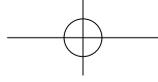
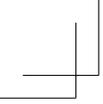
【株式会社東京航業研究所】

調査員 諸星 良一

発掘調査参加者及び整理作業参加者

稲毛 あゆみ 榎本 昇 大川 亜弓 大久保 聡 大熊 福太郎 川下 由光 小森 暁生 齊藤 雅司
柴田 久美子 白尾 司 鈴木 智之 高田 拓郎 竹内 あい 奈治原 亮年 畠山 真紀 宮澤 洋美
向井 正憲 持田 つる子 森田 望 八島 大介 山岸 榮 大和 修 山羽 孝

11. 本書の作成にあたり、次の方々・機関にご指導、ご助言、御協力を賜った。
井上正行 大東建託株式会社 戸田市立郷土博物館 戸田市立図書館（敬称略・五十音順）



凡 例

1. 挿図中の地図、検出遺構トレース図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系 2011 に則している。
3. 遺構番号は調査の進捗過程で、遺構のプランが確認された順に種別ごとに付したが、必要に応じて整理・報告書作成作業の過程で遺構の種別、番号を変更している。遺構略号は以下の通りである。
SD：溝状遺構 SA：柵列跡 SE：井戸跡 SK：土坑 P：ピット SX：性格不明遺構
4. 発掘調査時の土層観察における色調や遺物観察における色調は、『新版 標準土色帳（小山正忠・竹原秀雄 編・著者、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）』を参考にした。
5. 遺物拓影図は、向かって左側に内面、右側に外面を示した。ただし、外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。また、底面は下位に、天井面は上位に示した。
6. 遺物の種別の内、古墳時代前期初頭から平安時代に属する土器は、全て「土師器」と表記した。
7. 遺物実測図の内、須恵器は断面を黒塗りにし、その他の土器については断面を白抜きにした。また、赤彩部はトーンにより示した。
8. 遺物観察表法量の [] の値は残存部からの推定値を示す。
9. 遺物実測図および遺構実測図、写真図版の縮尺は、全て挿図中に示した。
10. 遺物実測図および遺物写真図版の個別番号の内、「①」のように示した遺物は出土状況図中に出土地点を示した資料であり、遺物出土状況図の「①」に対応している。一方、「1」のように示したものは一括取り上げ資料であり、遺物出土状況図に出土地点を示していない資料である。
11. 標高は、T.P（東京湾中等潮位）を基準とした。
12. 遺構実測図の水糸レベルは全て標高 3.30 m に統一した。
13. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：MY. 8. SD 01 - 25
遺跡略号 調査次 遺構種別 遺構番号 遺物番号

表面採集遺物や遺構外出土遺物は、遺跡略号及び調査次のみを記載した。なお、写真図版中の遺物写真には、旧遺構番号のまま註記を修正していないものがある。

目次

はじめに

例言／凡例

目次／挿図目次／挿表目次／図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査と整理作業の方法と経過	1
第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3節 遺跡・調査の概要	8
第4節 基本層序	10
第3章 検出された遺構と遺物	12
第1節 弥生時代の遺構と遺物	12
1 性格不明遺構	12
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物	15
1 柵列跡	15
2 溝状遺構	16
3 井戸跡	17
4 土坑	18
5 ピット	19
第3節 中世の遺構と遺物	20
1 溝状遺構	20
2 土坑	21
第4節 近世の遺構と遺物	23
1 土坑	23
2 ピット	26
第5節 時期不明の遺構と遺物	28
1 ピット	28
2 遺構外出土遺物	32
第4章 まとめ	34
1 弥生時代後半	34
2 古墳時代	34
3 奈良・平安時代から中・近世	34
4 まとめ	35

参考文献

Summary

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	埼玉県の地形	3	第 18 図	第 2 号ピット出土遺物	20
第 2 図	戸田市の地形	5	第 19 図	第 1 号溝状遺構 (SD01)	21
第 3 図	前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図	6	第 20 図	第 2 号土坑 (SK02)	21
第 4 図	前谷遺跡調査区位置図	7	第 21 図	第 7 号土坑 (SK07)	22
第 5 図	基本土層	10	第 22 図	第 11 号土坑 (SK11)	22
第 6 図	土層サンプル採取位置	10	第 23 図	第 13 号土坑 (SK13)	23
第 7 図	全体図	11	第 24 図	第 1 号土坑 (SK01)	23
第 8 図	第 1 号性格不明遺構 (SX01) (1)	13	第 25 図	第 3 号土坑 (SK03)	24
第 9 図	第 1 号性格不明遺構 (SX01) (2)	14	第 26 図	第 6 号土坑 (SK06)	24
第 10 図	第 1 号性格不明遺構出土遺物	14	第 27 図	第 8 号土坑 (SK08)	25
第 11 図	第 1 号柵列跡 (SA01)	16	第 28 図	第 9 号土坑 (SK09)	25
第 12 図	第 2 号溝状遺構 (SD02)	17	第 29 図	第 10 号土坑 (SK10)	26
第 13 図	第 1 号井戸跡 (SE01)	17	第 30 図	近世のピット (1)	26
第 14 図	第 1 号井戸跡出土遺物	18	第 31 図	近世のピット (2)	27
第 15 図	第 4 号土坑 (SK04)	18	第 32 図	ピット (1)	28
第 16 図	第 12 号土坑 (SK12)	19	第 33 図	ピット (2)	29
第 17 図	奈良・平安時代のピット	19	第 34 図	ピット (3)	30
			第 35 図	ピット (4)	31
			第 36 図	遺構外出土遺物	32

挿表目次

第 1 表	前谷遺跡周辺遺跡の概要	6	第 6 表	近世のピット計測表	27
第 2 表	第 1 号性格不明遺構出土遺物	15	第 7 表	ピット計測表	31
第 3 表	第 1 号井戸跡出土遺物観察表	18	第 8 表	遺構外出土遺物観察表	32
第 4 表	第 2 号ピット出土遺物観察表	20	第 9 表	遺構別出土点数・重量一覧	32
第 5 表	奈良・平安時代のピット計測表	20			

図版目次

図版 1

- 1 調査区完掘状況（上空から）
- 2 調査区西側完掘状況（南から）

図版 2

- 1 調査区東側完掘状況（南東から）
- 2 第 1 号井戸跡完掘状況（南東から）

図版 3

- 1 第 1 号性格不明遺構遺物出土状況（南西から）
- 2 第 1 号性格不明遺構遺物出土状況（北から）

図版 4

- 1 第 2 号溝状遺構完掘状況（南西から）
- 2 第 2 号ピット完掘状況（南西から）
- 3 第 6 号ピット（北西から）
- 4 第 11 号ピット完掘状況（北から）
- 5 第 1 号溝状遺構完掘状況（北から）
- 6 第 1 号柵列完掘状況（北西から）
- 7 第 13 号土坑・第 53 号ピット完掘状況（南から）
- 8 第 17 号ピット完掘状況（南西から）

図版 5

出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

令和元年9月、事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教育委員会」という。）に対し、戸田市上戸田二丁目27番5における共同住宅建設事業計画及び埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

市教育委員会では、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地に所在しており、開発工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対し工事着手前に試掘確認調査を実施するように指導した。

これを受け、令和元年10月2日に事業者から市教育委員会に対し試掘確認調査の依頼書が提出され、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘確認調査は、市教育委員会が令和2年2月25日に実施し、平安時代の溝状遺構、土坑、ピットとこれに伴う土師器、須恵器を確認した。

その後、事業者、市教育委員会間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、柱状改良等で埋蔵文化財の破壊を免れない建物建設予定地については記録保存のための緊急発掘調査、それ以外については現状保存を実施することで合意した。

令和2年1月21日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、令和2年5月1日付戸教生第152号にて県教育委員会教育長あてに進達した。

これを受けて、県教育委員会から事業者に対し、令和2年5月7日付教生文第4-213号で、申請地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

また、事業者は市教育委員会に対し、令和2年4月24日付で発掘調査の依頼書を提出し、また令和2年5月1日付戸教生第145号にて2者による「共同住宅建設予定地にかかる埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、市教育委員会から県教育委員会宛に、文化財保護法第99条の規定に基づき、令和2年5月1日付戸教生第160号により埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、前谷遺跡第8次発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査と整理作業の方法と経過

1 発掘調査

前谷遺跡第8次調査は、令和2年5月8日から6月12日まで実施した。調査面積は、145.53㎡である。5月8日に調査区を設定し、機材搬入を行った。5月11日より重機による表土掘削を実施した。表土掘削は、東側の調査区を対象として面積の約50%を掘削し、掘削で生じた排土は調査区の未掘削範囲に仮置きし整形して、防塵ネットをかけて保管した。12日は、測量基準点とグリッドを設定し、発掘調査補助員を導入し、人力による調査区整備と遺構確認作業を実施した。写真の撮影は、全

てフルサイズのデジタル一眼レフカメラ CanonEOS6D を使用し、TIFF と RAW 形式の設定で記録した。13 日から確認された遺構の先後関係と土層確認のためのベルトを設定して掘削を開始した。遺構の断面を観察した後に遺構の種別を決定し、断面図、平面図の作成、出土遺物の測量収納作業などを 28 日まで実施した。また、性格不明遺構が検出されたため、土層断面において自然科学分析用の土壌サンプルを採集した。同 28 日には、発掘調査区の完掘状況写真の撮影とドローンによる発掘調査区の空撮と遺構の平面図作成のための空撮を実施した。29 日には埋め戻しを実施し、残りの調査区の表土掘削を開始し、30 日には表土掘削、排土の整形を終了した。

後半の作業は、1 日より発掘調査補助員を導入して、人力による調査区整備と遺構確認作業を実施したが、断続的な降雨の天候の為午後 3 時で作業を終了した。翌日 2 日から天候が回復し、遺構確認作業、遺構のベルト設定の後に遺構の掘削を開始し、断面図、平面図の作成、出土遺物の測量作業を 9 日まで実施した。梅雨入りにより天候が不順なため、発掘調査区の完掘写真撮影、ドローンによる調査区の完掘写真撮影、写真測量の作業を急遽 10 日に繰り上げて実施した。11 日には機材の片づけを実施し、12 日に重機による埋め戻しと整地作業を実施し、15 日に仮設テントの撤去と機材の搬出、現状復旧を実施し、全ての発掘調査の作業を終了した。現地での発掘調査に要した日数は 28 日間であった。

2 整理作業

当該調査に係る出土品及び図面、写真、デジタル・データの整理作業、報告書作成は、令和 2 年 6 月 16 日から令和 2 年 12 月 25 日まで、株式会社東京航業研究所で実施した。

発掘調査で出土した出土品は、洗浄・註記・接合を実施した。その後、報告書掲載の遺物を抽出し、台帳を作成してから実測図作成、拓影採取、データをデジタル化し、デジタルトレースと編集作業を実施した。遺構の平面図、断面図、写真測量データも一部をデジタル化し、コンピューターにより編集作業を実施した。

遺物写真は、RAW (NEF) 形式で撮影した。

これらのデジタル・データの作成と編集作業は、Illustrator、Photoshop、InDesign を使用した。

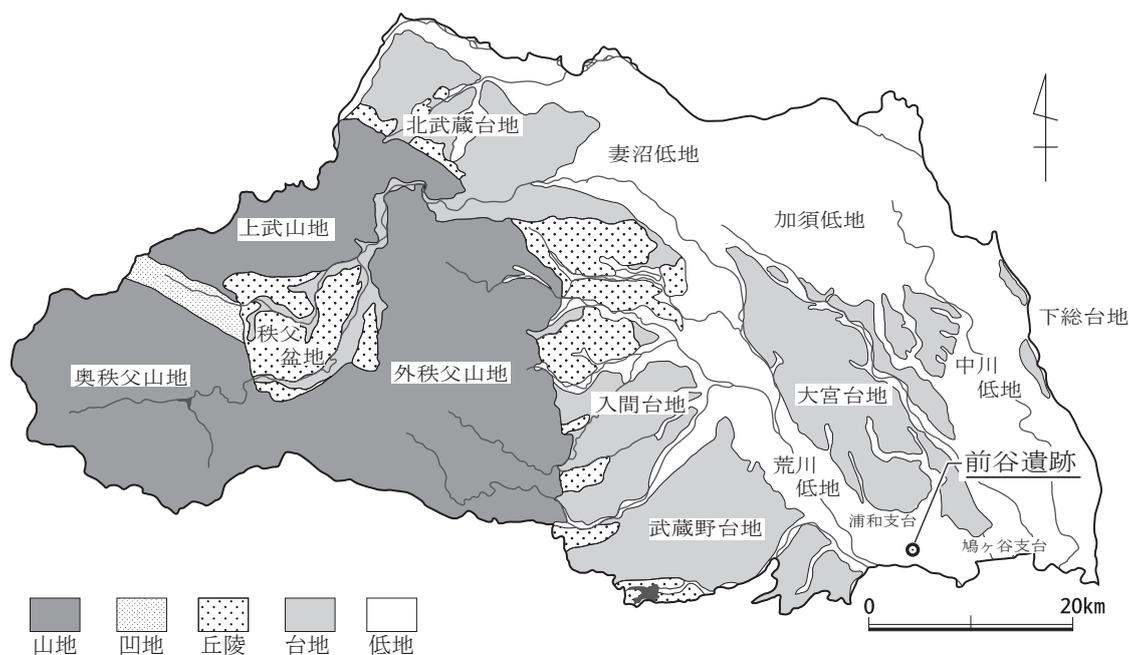
第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約 6.0km、南北約 3.0km、面積 18.19km²の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市及び川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市及び和光市、南の東京都板橋区及び北区とは、荒川を隔てて接している。市域には、国道 17 号線（旧中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速 5 号線、東京外郭環状道路、JR 埼京線の開通により、交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、約 2 万年前の最終氷期に形成された開析谷を利根川等の河川が運搬した土砂により形成された平坦な沖積低地（荒川低地）に位置している。荒川低地の下流には標高 3 m ほどの発達した微高地が、市内の中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市まで荒川に沿って分布し、この微高地の南北に低地が裾のように広がる。この微高地は自然堤防とする説もあるが、荒川右岸に微高地が確認できないことや、形状が団子状を呈していることから浅谷もしくは海成段丘との指摘もある。

市内の地層は、戸田市本町付近では地下 50 m の地点に開析谷の基底礫層があり、その上に軟弱な沖積層が充填している。沖積層の上部 2 m から 3 m の層は戸田・蕨地域ではよく見ることができ黄褐色・灰白色のシルト質粘土層で、戸田市においては遺跡の検出面としている層である。この層は岩質が均一である点や、微低地にはヨシ・マコモなどの水辺植物の遺体からなる泥炭層が挟在していることから、荒川低地を流れていた旧利根川が中川低地に東遷し、デルタ的環境から流水の影響の少な



第1図 埼玉県の地形

い湖沼・潟的な環境に移行した後に形成された層である。形成時期については、泥炭層の炭素年代が $1640 \pm 60\text{yBP}$ とされることから、弥生時代末から古墳時代前期の時期にあたり、市内に初めて集落が形成された当時は微高地の周囲には湖沼・潟的な環境が広がっていたと見られる。

前谷遺跡は、上戸田二丁目を中心に広がる遺跡である。JR 埼京線戸田公園駅から北東に約 700m、戸田駅から南東に約 900m の位置に所在し、東側に国道 17 号線（旧中山道）が南北に走る。今回の調査地は、前谷遺跡の北西端に位置し、荒川左岸に形成された標高約 3.5m の微高地上に立地する。

第 2 節 歴史的環境

戸田市では、現在までのところ旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代に帰属する遺跡も確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯 a 式の破片資料 1 点が出土しており、本町からは前期末のほぼ完形の十三菩提式深鉢形土器が出土している。また、戸田市文化会館の建設中に、含礫砂層から縄文時代前期から中期の頃の化石人骨が見つかった。人骨の周囲には丸木舟と見られる木屑なども見つかった。この時期の戸田市域が海進の影響を受けていたことが分かる。中期は、鍛冶谷・新田口遺跡・前谷遺跡や南原遺跡などで勝坂式・阿玉台式や加曾利 E 式期の土器片が検出されている。後期は、鍛冶谷・新田口遺跡では、堀之内式、加曾利 B 式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。

縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭になると、市域内の微高地上に遺跡が形成されるようになる。

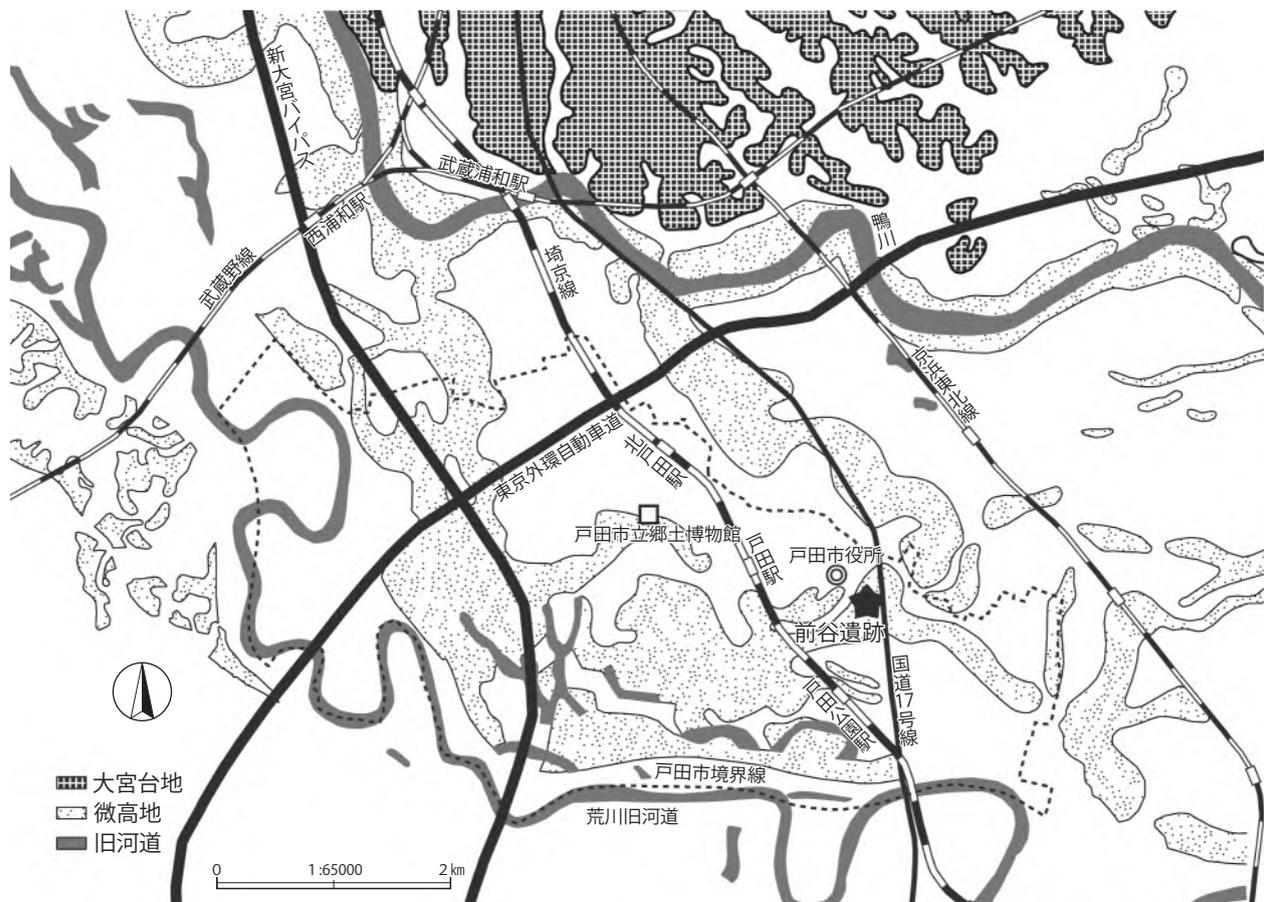
弥生時代後期末から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡及び根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和 51 年 (1976) に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、第 2 次及び第 3 次調査では、環濠と思われる溝状遺構と溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された遺跡は南原遺跡第 2 次調査 B 区で竪穴住居跡 3 軒、第 9 次調査で井戸跡 1 基、第 10 次調査で竪穴住居跡 1 軒と、土坑 2 基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内には、「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在し、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀 2 振が出土している。また、上戸田本村遺跡では鬼高式期の竪穴住居跡 2 軒、馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が 1 基検出されている。南原遺跡では、第 1 次調査で人物埴輪、円筒埴輪等が出土した円墳 1 基、第 2 次調査 A 区で円形周溝墓（円墳）1 基、第 3 次調査 D 区で鬼高式期の竪穴住居跡 1 軒と屋外竈 1 基、第 4 次調査で円形周溝墓（円墳）2 基、6 次調査で円形周溝墓（円墳）1 基、第 8・9 次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が 2 基検出されている。第 1 2 次調査では、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が 1 基検出されている。

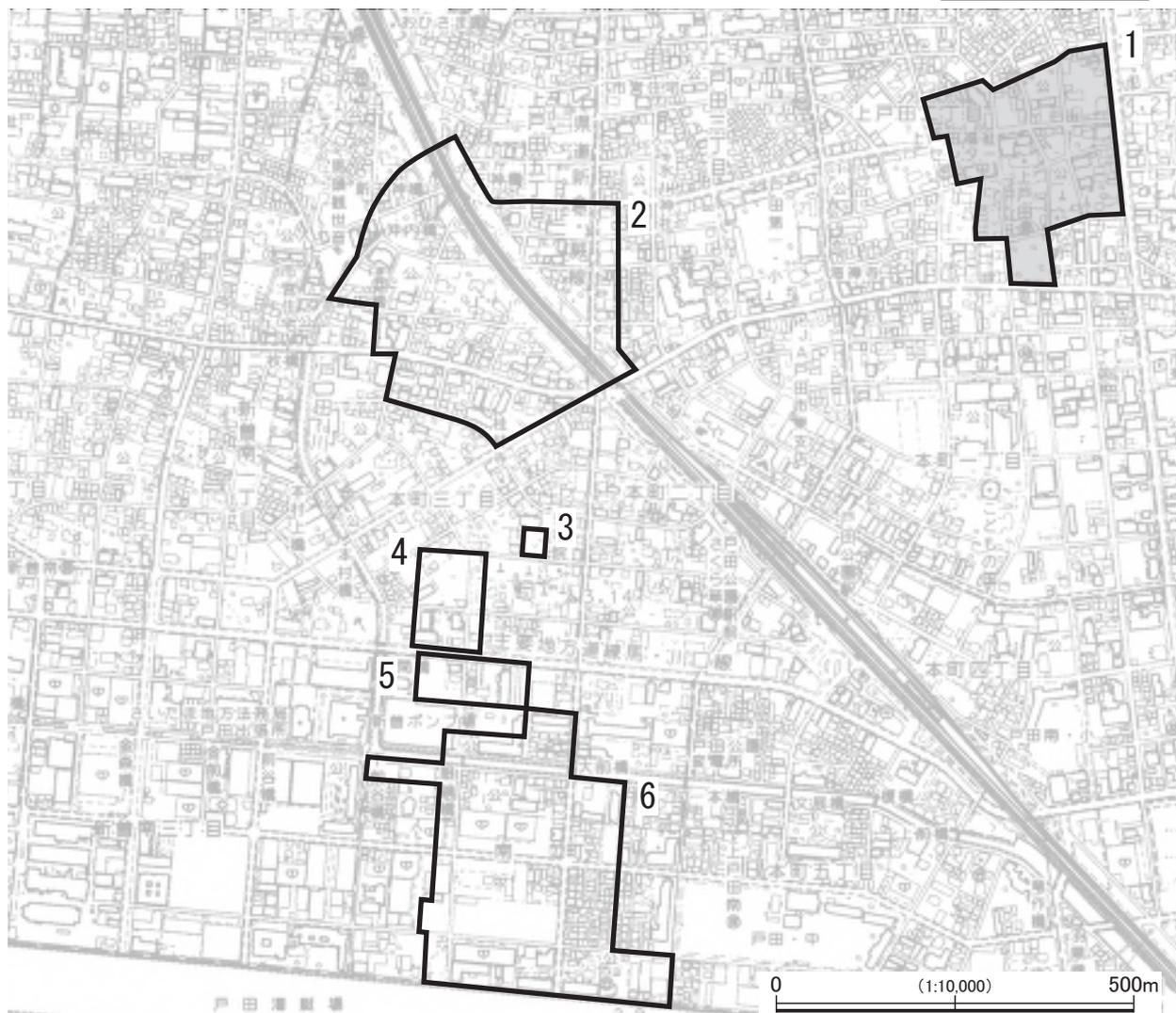
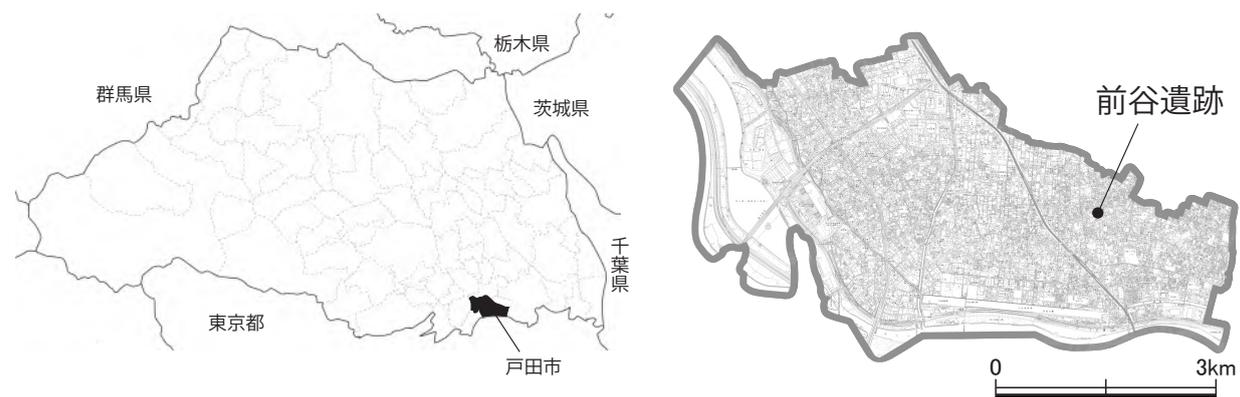
平安時代は、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、柵列跡、畝状遺構が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつて佐々目郷に当たり、鎌倉時代から戦国時代にかけて鶴岡八幡宮の社領であった。当該期は、大前遺跡や前谷遺跡、南原遺跡、南町遺跡及び美女木八幡社協遺跡で掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸跡などが検出されている。

近世は、市の大半の村が幕府の直轄領となり、徳川家の鷹場として使用されていたことが分かっている。また、五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡る「戸田の渡し」が板橋宿と蕨宿を結ぶ交通の要所として機能していた。当該期は鍛冶谷・新田口遺跡第9次調査で溝状遺構や井戸跡が、美女木八幡社協遺跡では美女木八幡社を廻っていた堀の跡が検出されている。



第2図 戸田市の地形



第3図 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図

第1表 前谷遺跡周辺遺跡の概要

NO.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目	集落跡・城館跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	微高地
2	鍛冶谷・新田口遺跡	戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新曾	集落跡	弥生後期・古墳前期	微高地
3	大前遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	微高地
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡・円墳	古墳後期	微高地
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	微高地
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉	微高地



- I 第1次調査(1972) : 戸田市教育委員会調査(伊東 1978)
- II 第2次調査(2007) : 戸田市教育委員会調査(岩井 2014)
- III 第3次調査(2011) : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(赤熊 2015)
- IV 第4次調査(2011~2012) : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(岩井 2015)
- V 第5次調査(2016) : 戸田市教育委員会調査(長澤 2018)
- VI 第6次調査(2017) : 戸田市教育委員会調査(吉田 2019)
- VII 第7次調査(2019) : 戸田市教育委員会調査(今井・辻 2020)
- VIII 第8次調査(2020) : 戸田市教育委員会調査(本調査)

第4図 前谷遺跡調査区位置図

第3節 遺跡・調査の概要

前谷遺跡は、JR 埼京線戸田公園駅から北東約 700m の埼玉県戸田市上戸田二丁目地内に所在する。遺跡周辺には、「櫛構(とうがまえ)」、「竹ノ内」、「左衛門屋敷」、「雑色」、「元蕨」等の地名が古くから残っている。

中山道蕨宿の成立が元蕨からの移住に伴うことが、戸田・蕨の近世文書で確認できることから、中世には同地に六斎市などが開かれていたと見られ、また土塁の一部であった可能性のある地膨れ状の地形が残存していたことから、「蕨城」がこの地域に存在していた可能性が指摘されている。

本遺跡は、昭和 47 年(1972)の第 1 次発掘調査から、本調査を含めて 8 次にわたる発掘調査が実施されている。

第 1 次発掘調査は、昭和 47 年 8 月 23 日から 9 月 6 日までの期間で、店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 2 基と平安時代から中世の溝状遺構 8 条などである。遺物は、周溝状遺構から複合口縁を持つ壺形土器、台付甕形土器、広口壺形土器、高坏形土器などが出土している。第 3 溝から 10 世紀代に比定できる灰釉陶器、須恵器、土師器等が検出され、第 4 溝は、断面形状が薬研状を呈しており、中世城館の堀であった可能性が指摘されている。

第 2 次発掘調査は、平成 19 年(2007) 2 月 13 日から 3 月 20 日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 2 基、平安時代の掘立柱建物跡 1 棟、溝状遺構 3 条、中世の溝状遺構 2 条、井戸跡 2 基、土坑 1 基、その他時期不明であるが平安時代から中世に帰属する可能性がある柵列跡 4 列、土坑 4 基、ピット 43 基である。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の瓦塔片、土師器、須恵器、中世の陶器、漆器、板碑、その他土製紡錘車、砥石等である。これらのなかでも詳細な時期・産地は不明であるが、第 5 号溝状遺構から出土した線刻画が施された須恵器瓶の破片資料は、他に類例が少なく、特筆できる。

第 3 次発掘調査は、平成 23 年(2011) 12 月 1 日から平成 24 年(2012) 1 月 31 日までの期間で、戸建分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は古墳時代前期の周溝状遺構 6 基、井戸跡 1 基、土坑 10 基、平安時代の土坑 37 基、井戸跡 3 基、溝状遺構 1 条、ピット 59 基、中・近世の溝状遺構 4 基、井戸跡 1 基などである。遺物は、複合口縁を持つ壺形土器、甕形土器、台付甕形土器、無頸壺、8・9 世紀の東金子、南比企及び末野産の須恵器、中世の常滑焼、近世の天目茶碗等が出土している。

第 4 次発掘調査は、平成 23 年 12 月 26 日から平成 24 年 1 月 18 日までの期間で戸建専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 1 基、溝状遺構 1 条、平安時代の溝状遺構 3 条を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦塔片、中世の陶器等を検出した。

第 5 次発掘調査は、平成 28 年(2016) 6 月 1 日から 6 月 30 日までの期間で個人住宅建設に伴う

緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、溝状遺構1条、平安時代の溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡2基、その他時期不明のピット11基を検出した。遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中世の陶器片を検出した。

第6次発掘調査は、平成29年（2017）4月17日から5月31日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、土坑1基、平安時代から中世相当の溝状遺構5条、土坑21基、井戸跡4基を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中近世の陶器片が出土した。

第7次発掘調査は、令和元年（2019）12月2日から12月20日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、平安時代から中世までの畝状遺構17条、区画溝3条、土坑26基、その他時期不明のピット23基を検出した。出土遺物は、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、ロクロ土師器が出土した。このうち畝状遺構は平安時代の畑作遺構として戸田市内では初めて確認された。

本調査は、第8次発掘調査となる。令和2年（2020）5月8日から6月12日までの期間で共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、平安時代の柵列跡1基、溝状遺構1基、井戸跡1基、土坑2基、ピット4基、中世の溝1条、土坑4基、近世の土坑6基、ピット12基、時期不明の性格不明遺構1条、ピット42基を検出した。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、ロクロ土師器、陶器、砥石が出土した。

第4節 基本層序(第5図)

遺跡の基本層序は、層位に不整合面が介在するため、C-3のSX西壁とA-2の1号井戸の西壁の断面を組み合わせて作成した。また、SXの堆積層淘汰がよく、堆積状況が良好であったため、遺跡の形成年代、形成過程の解明を目的とした降灰火山灰の同定、花粉、植物珪酸体、珪藻、土質などの自然科学分析を実施するための土壌サンプルを上位から基層まで5cm単位で採集し、それらのサンプルの採集位置を土層断面図に図示した(第6図)。なお、これらの自然科学分析に関しては、今後その目的と方法を検討し実施する予定である。

I層は表土、および攪乱層で、地点によって構成内容が異なるが現代の所産である。

II a層は暗褐色(10YR3/3)のシルト質土で、色調が灰色でありやや砂質の特徴がある。

II b層はにぶい黄褐色(10YR4/3)のシルト質土で、II a層より色調がやや明るい、細粒である。

III a層は暗褐色(10YR3/3)のシルト質土で、色調が黒く細粒緻密である。

III b層は黒褐色(10YR3/2)のシルト質土で、III a層よりも色調が暗く細粒緻密である。

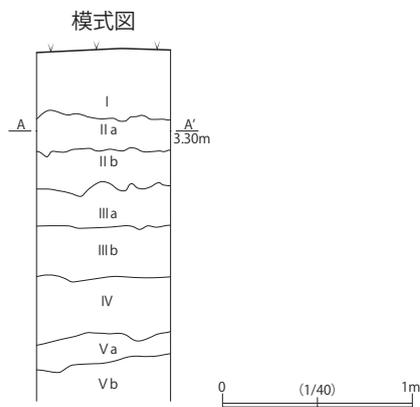
III a・b層は、古代から平安時代の遺構の覆土と共通する特徴を持っている。

IV層は灰黄褐色(10YR5/2)のシルト質土で、遺構を検出した地山であるが、やや砂質で脱色が進んでいる。

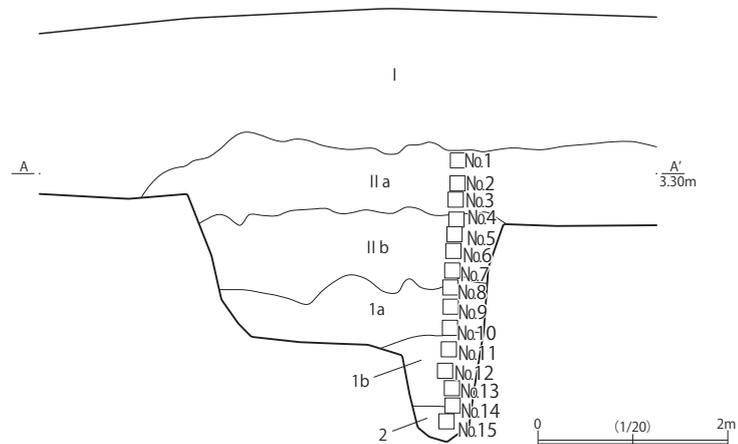
V a層は灰黄褐色(10YR5/2)のシルト質土～粘質土で、IV層より細粒であり脱色が進み粘性が強い。

V b層は褐灰色土(10YR5/1)の粘質土で、V a層より細粒緻密でグライ化が進み、脱色している。

これらの土層は、褐鉄鉱を含んでいるが、土中の水分から供給されたものであり、基本土層の特徴としては地層堆積後の二次的要因として評価される。



第5図 基本土層



第6図 土層サンプル採取位置



第7图 全体图

第3章 検出された遺構と遺物

検出された遺構について、覆土と出土遺物から厳密な帰属時期が推定できないものについては時期不明と称し、帰属時期が推定できるもののみ帰属時期を明記した。

第1節 弥生時代の遺構と遺物

1 性格不明遺構

第1号性格不明遺構－SX01

遺構（第8・9図・図版3－1・2）

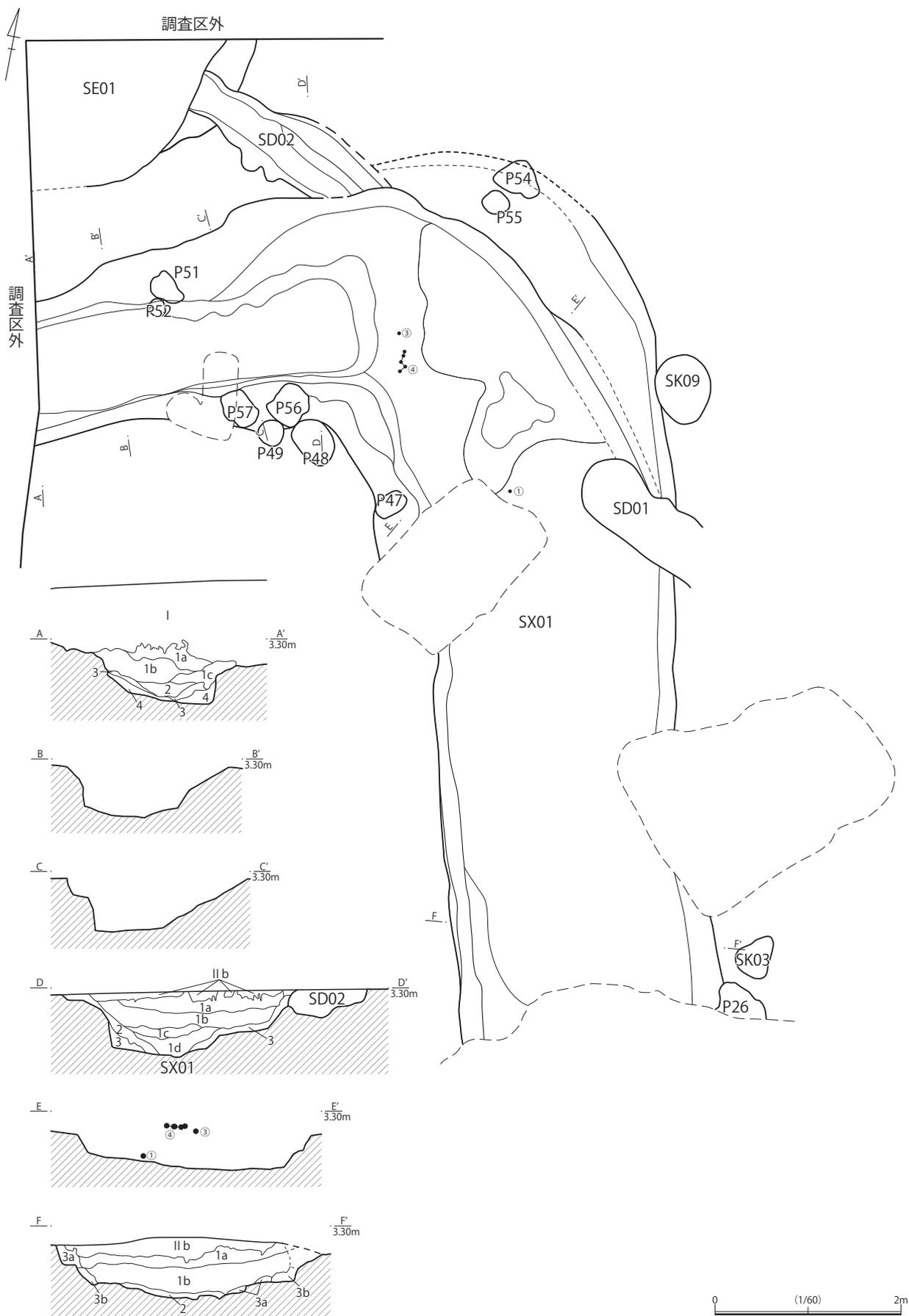
位置：A・B－2・3、C－3・4グリッド。重複関係：第1号溝状遺構、第9号土坑、P26・47～49・51・52・56・57に切られる。第2号溝状遺構と重複するが土層観察から先後は不明である。平面形・規模：調査区中央南壁から北方向に広がり北西方向で流路を西に変え調査区外に伸びており、総延長約12.14m、上端幅1.47～3.65m、下端幅0.57～2.3m、確認面からの深さは最大約0.68mである。A－3グリッド付近の屈曲点がテラス状に高くなっている。調査区A－2・3グリッド付近の北側の上端は、西側と南側の上端と比較すると北側になだらかに広がっている。性格は俄かに決し難いが、出土遺物に弥生時代後期後半の壺が含まれる。このことから方形周溝墓の可能性もあろう。その観点で溝の立ち上がりを見ると、B－B'・C－C'・D－D'・E－E'ラインでは方台部側と想定される壁が直線的に斜めに立ち上がる。一方、外側の壁はB－B'・C－C'が緩やかに直線的に立ち上がり、D－D'・E－E'ラインではテラスを持ち階段状に立ち上がる。A－A'では方台部と想定される壁が外壁に比べ緩やかに立ち上がるが、概ね想定方台部側の壁が明確に立ち上がる。次に図示した遺物を見ると弥生時代後期後半の赤彩壺(①)の出土位置が溝底面に近く、他のものは覆土上層から出土している。覆土上層に関しては、D－D'・F－F'部分で基本層序のⅡb層が最上層に認められる。溝跡の屈曲部付近から南東部分にかけてはⅡb層が安定して堆積していたものと考えられる。基本層序Ⅲ層が平安時代の遺構と覆土と共通する。その上層に堆積しているⅡb層は平安時代以降の堆積層である。つまり①以外は平安時代以降の流れ込みと考えられる。微高地上に位置する遺構であるため、何度かの河川氾濫があったと思われ、その度に小規模な自然流路のようなものが形成された可能性があり、それに伴い①以外の遺物は運ばれてきたものと思われる。また、溝壁がテラス状になることや、F－F'の溝底面に認められる凹凸など流水の可能性が高い。以上のことから流水による影響も認められるが、①が方台部から転落した遺物と考え、方形周溝墓とした方が平仄が合う。覆土：3箇所覆土を観察したが、シルト質土が7層に分類された。

遺物（第10図・第2表・図版5－3）

出土状況：弥生時代の壺、甕、器台、高坏、坏、平安時代のロクロ土師器の坏125点(2,179.0g)、須恵器甕、坏破片11点(64.9g)などが出土しているが、いずれも埋没土内で検出されており原位置での発見ではない。これらの遺物は、B－2・3グリッドの南西側の覆土中で多くが検出されている。

時期

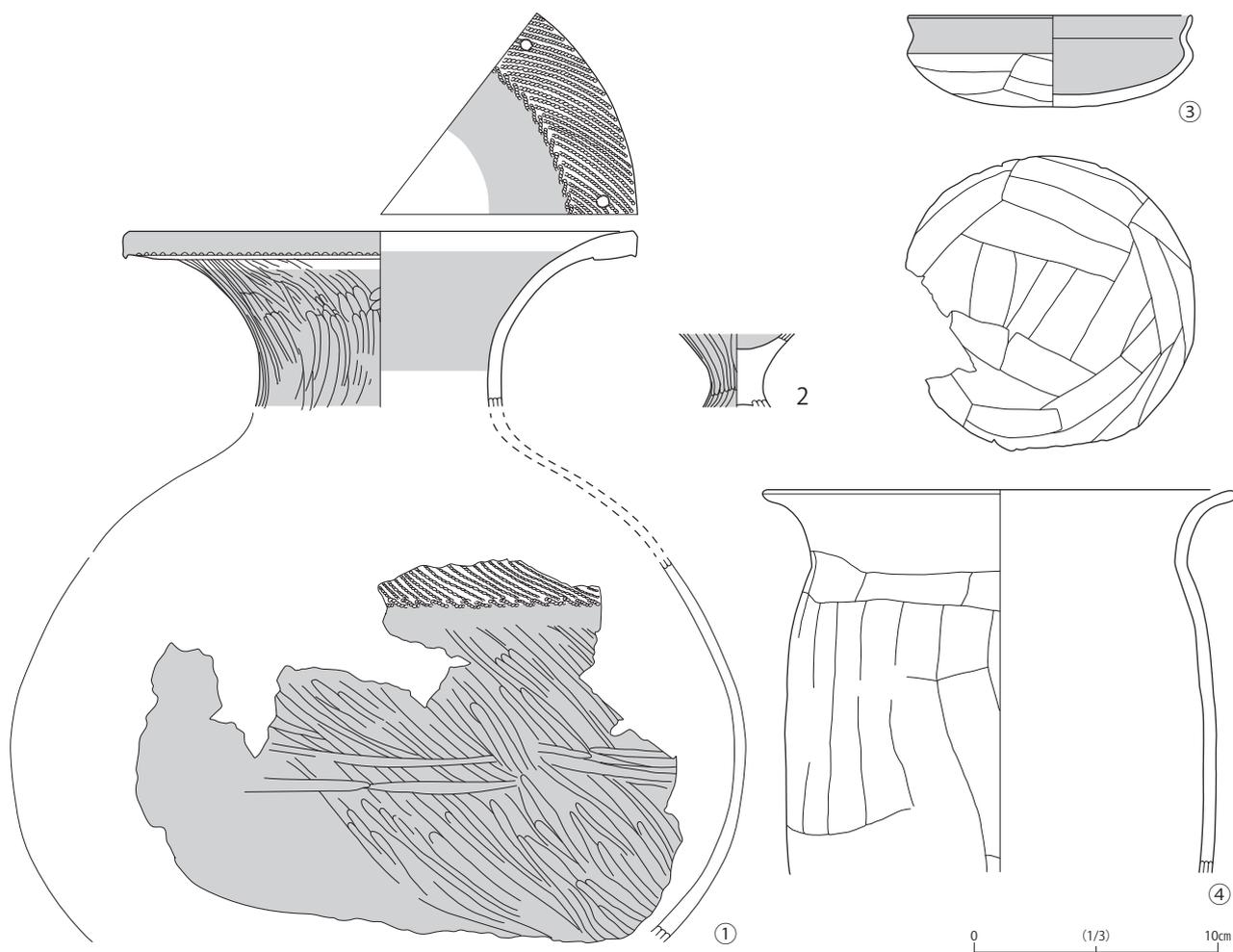
出土遺物から、弥生時代後期後半と思われる。



第8図 第1号性格不明遺構 (SX01) (1)

第1号性格不明遺構 A-A'			
1a層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。II b層を部分的に少量含む。	2層 黒褐色土 (10YR3/1)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~10mm) を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
1b層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く含む。	3層 黒褐色土 (10YR3/1)	粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
1c層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~10mm) を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に少量含む。	4層 黒褐色土 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~30mm) を部分的に含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。南端。
2層 黒褐色土 (10YR2/2)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~10mm) を部分的に少量含む。	第1号性格不明遺構 F-F'	
3層 黒褐色土 (10YR3/1)	粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に多く含む。	1a層 黒褐色土 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く含む。
4層 灰白色土 (10YR8/1)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多量、IV層を全体に多量に含む。	1b層 黒褐色土 (10YR3/2)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を部分的に含む。IV層基層
第1号性格不明遺構 D-D'		2層 黒褐色土 (10YR3/1)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く、IV層を部分的に少量含む。黒味強い。III+IV層
1a層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。II b層を部分的に少量含む。	3a層 黒褐色土 (10YR2/2)	粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、1b層を全体に多く含む。III層基層
1b層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く含む。	3b層 褐灰色土 (10YR4/1)	粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。地山直上、東側。IV層基層
1c層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~10mm) を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に少量含む。		
1d層 黒色土 (10YR2/1)	粘性強い、しまり強い。IV層 (φ 1~20mm) を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。		

第9図 第1号性格不明遺構 (SX01) (2)



第10図 第1号性格不明遺構出土遺物

第2表 第1号性格不明遺構出土遺物

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	残存率 (%)	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
10-① 5-3-①	SX01	弥生土器 壺	口縁～ 胴部	30	21.0 22.5 -	660	折返し口縁下端部にキザミ・口縁内部に単節(LR) Z字状結節縄文・口縁内部ほぼ等間隔に円形浮文8単位か・胴部上部に単節(RL)結節縄文・頸部ヘラケズリ後縦ミガキ・胴部斜位ミガキ・胴部最大径部部分的に横ミガキ・口縁部内外面赤彩・口縁部内面縄文以下の頸部赤彩(不明瞭)・頸部胴部外面赤彩	シャモット	良	赤彩ー赤褐 外ーにぶい黄橙 内ー黒褐	
10-2 5-3-2	SX01	土師器 高環	底～脚部	5	- 3.0 -	32	環部ミガキ・脚部外面縦位ミガキ・環部内外面赤彩・脚部外面赤彩	角閃石・白色粒子	良	外ー赤褐 内ー赤褐	
10-③ 5-3-③	SX01	土師器 環	口縁～ 底部	80	[12.0] 3.7 -	122	口縁部有稜・内面ミガキ・口縁部外面横ナデ・口縁部内面凹面にくぼむ・底部中央ヘラケズリ後周辺部同一方向にヘラケズリ・内外面赤彩	石英・角閃石・ 白色粒子	良	赤彩ー赤 外ー赤 内ー橙	比企型環
10-④ 5-3-④	SX01	土師器 長胴壺	口縁～ 胴部	10	[19.4] 16.2 -	244	口縁部内外面強い横ナデ・胴部外面縦位ケズリ後上端部横位ケズリ・内面横位ナデ・外面荒れ	石英・角閃石・ 白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良	外ー橙 内ーにぶい橙	

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1 柵列跡

第1号柵列跡ーSA01

遺構(第11図・図版4-6)

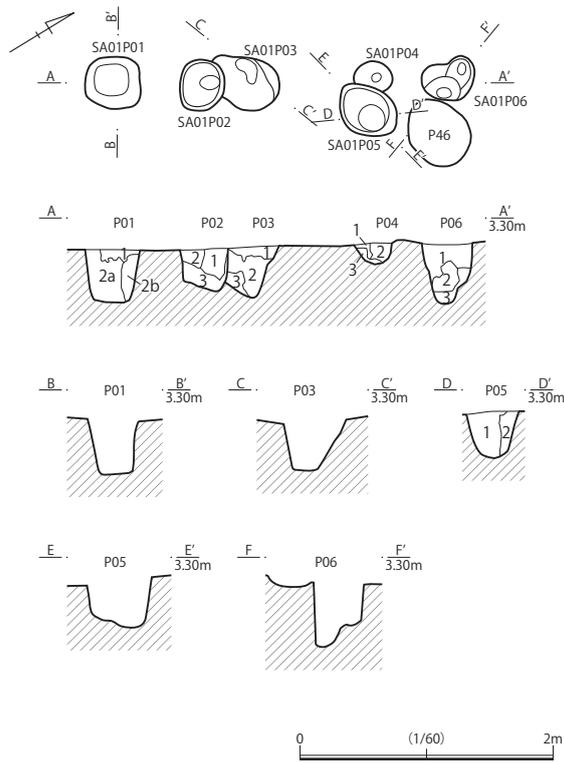
位置：C-2・B・C-3グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：調査区中央より南西寄り
で検出され、総長2.63mで、3間分を確認した。柱間はP01-P03が1.08m、P03-P04が1.01
m、P04-P06が0.56mである。主軸方向：N-34°-E。柱穴：6基の柱穴を確認したが、P02
はP03を切り、P04はP05を切っており、柱穴の移設が行われている。柱穴の平面形は楕円形から
隅丸方形で長軸0.3~0.58m、短軸0.21~0.45m、確認面からの深さ0.17~0.48mである。覆土：
6箇所覆土を観察したが、IV層を基層とした覆土で明確な抜き取り痕の土層は確認されず、人為的
に形成された土層も確認されていない。

遺物

出土状況：P02から摩滅した土師器1点(1.4g)、P03からロクロ土師器の坏と摩滅した破片3点
(7.9g)、P06から須恵器坏破片1点(1.5g)が出土している。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から奈良・平安時代の可能性がある。



- 第1号柵列跡 P01
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に、褐鉄鉱を全体に含む。
 - 2a層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に少量含む。
 - 2b層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 第1号柵列跡 P02
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量、褐鉄鉱 (φ 3~5 mm) を部分的に微量に含む。
 - 3層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 第1号柵列跡 P03
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。炭化物 (φ 5~10 mm) を部分的に微量、IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
 - 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に、褐鉄鉱を全体に含む。
 - 3層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性強い、しまり強い。III層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 第1号柵列跡 P04
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多量、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
 - 3層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 第1号柵列跡 P05
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に、褐鉄鉱を部分的に含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 第1号柵列跡 P06
- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
 - 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量含む。
 - 3層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。

第11図 第1号柵列跡 (SA01)

2 溝状遺構

第2号溝状遺構 - SD02

遺構 (第12図・図版4-1)

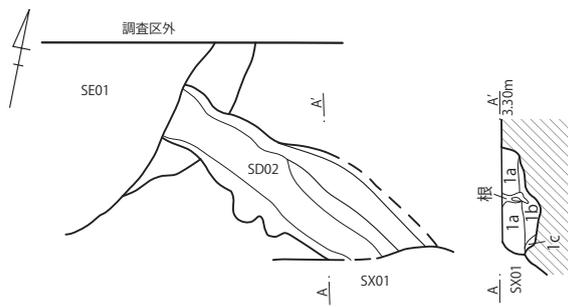
位置：A-2グリッド。重複関係：第1号井戸跡に切られる。第1号性格不明遺構と重複するが土層観察から先後は不明である。平面形・規模：調査区北西隅で検出され、第1号井戸跡に切られて西北西から東南東方向に第1号性格不明遺構まで伸びている。長さ約2.19m、上端幅0.4~0.8m、下端幅0.24~0.39m、確認面からの深さは約0.31mである。井戸跡に接続するような位置にあることから、井戸から漏れ出た水を排水する機能を有していた可能性がある。主軸方向：N-70°-W。覆土：淘汰の良いIV層を基層としたシルト質土がレンズ状に堆積しており、自然堆積層と推定される。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

第1号井戸跡との切り合い関係、覆土の特徴から平安時代の可能性がある。



- 第2号溝状遺構
- | | |
|--------------------|--|
| 1a層 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性強い、しまり強い。焼土 (φ 1～15mm) を部分的に微量、IV層 (φ 5～20mm) を部分的に少量含む。 |
| 1b層 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く含む。 |
| 1c層 黒色土 (10YR2/1) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多量に含む。 |

0 (1/60) 2m

第12図 第2号溝状遺構 (SD02)

3 井戸跡

第1号井戸跡 - SE01

遺構 (第13図・図版2-2)

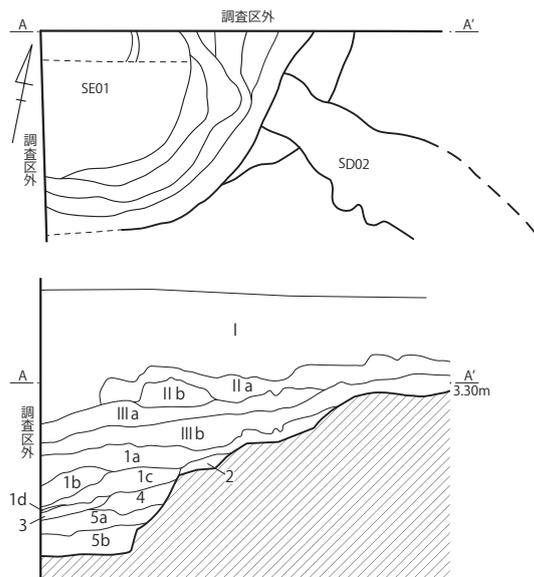
位置：A-1・2グリッド。重複関係：第2号溝状遺構を切る。平面形・規模：調査区北西隅で検出され、第2号溝状遺構を切り部分的に検出されている。平面形は楕円形と推定され、長軸 2.48 m 以上、短軸 1.63 m 以上、確認面からの深さは約 1.27 m で、壁面中段には部分的に幅の狭い段が形成されているが、井戸の掘り下げ、水汲みと昇降の際の足場の機能を担っていたものと推定される。主軸方向：N-79°-E。覆土：人為的な堆積層は確認されず、崩落土と流れ込みの土層で形成され、上層のシルト質土から下層に下がるにつれて粒度が細くなり粘質土の覆土となる。下層は、グライ化が進行し、土色が脱色している。

遺物 (第14図・第3表・図版5-1)

出土状況：土師器は古墳時代の坏身模倣坏、壺、ロクロ土師器坏など 23 点 (95.1g)、須恵器坏、甕など 22 点 (225.1g)、陶器蓋 1 点 (11.4g)、土師質土器 1 点 (6.7g)、礫片 3 点 (31.0g)

時期

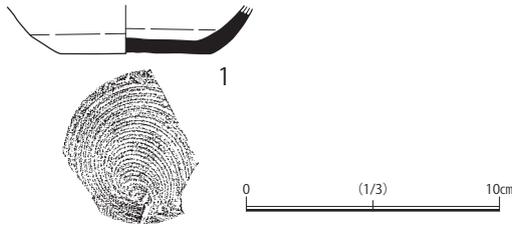
覆土の特徴と出土遺物の特徴から平安時代の可能性がある。



- 第1号井戸跡
- | | |
|--------------------|--|
| 1a層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多量に含む。 |
| 1b層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| 1c層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| 1d層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。ラミナ |
| 2層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に多く含む。崩落土 |
| 3層 黄褐色土 (10YR5/6) | 粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を部分的に多量に含む。部分的にグライ化 |
| 4層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多量、褐鉄鉱を全体に含む。 |
| 5a層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に含む。グライ化 |
| 5b層 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強い、しまり強い。褐鉄鉱を全体に、シルト (φ 5～20mm) を部分的に少量含む。グライ化 |

0 (1/60) 2m

第13図 第1号井戸跡 (SE01)



第14図 第1号井戸跡出土遺物

第3表 第1号井戸跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	残存率 (%)	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
14-1 5-1-1	SE01	須恵器 坏	胴～底部	20	- 1.6 6.0	34	右ロクロ整形・底部回転系切	石英・白色粒子・ 白色針状物質	良	外-灰オリーブ 内-灰オリーブ	南比企産

4 土坑

第4号土坑—SK04

遺構 (第15図)

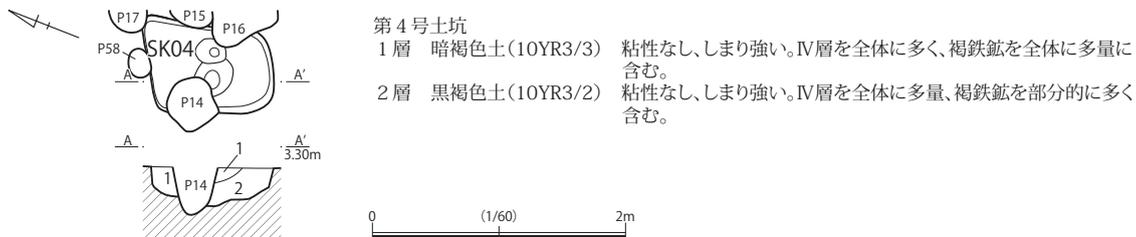
位置：B-4グリッド。重複関係：P14～16に切られ、P17・58と重複するが先後は不明である。平面形・規模：調査区中央東側で検出され、平面形は隅丸長方形である。長軸1.02m、短軸0.81m、確認面からの深さは約0.31mである。主軸方向：N-24°-W。覆土：IV層を基層とした自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：ロクロ土師器の坏破片と摩滅した破片5点(43.8g)が出土している。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から平安時代の可能性がある。



第15図 第4号土坑 (SK04)

第12号土坑—SK12

遺構 (第16図)

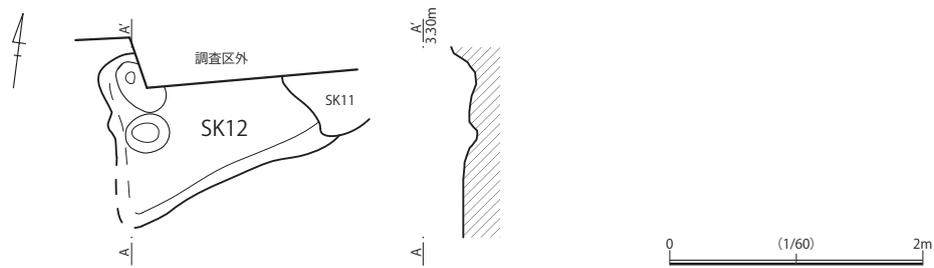
位置：A-3グリッド。重複関係：第11号土坑に切られる。平面形・規模：調査区中央北壁で検出され、平面形は不明で長軸1.81m以上、短軸1.35m、確認面からの深さは約0.21mである。主軸方向：不明。覆土：IV層を基層とした自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：土師器の甕1点、摩滅した破片1点(20.6g)が出土している。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から平安時代の可能性がある。



第16図 第12号土坑 (SK12)

5 ピット

遺構 (第17図・第5表・図版4-2・3・4・8)

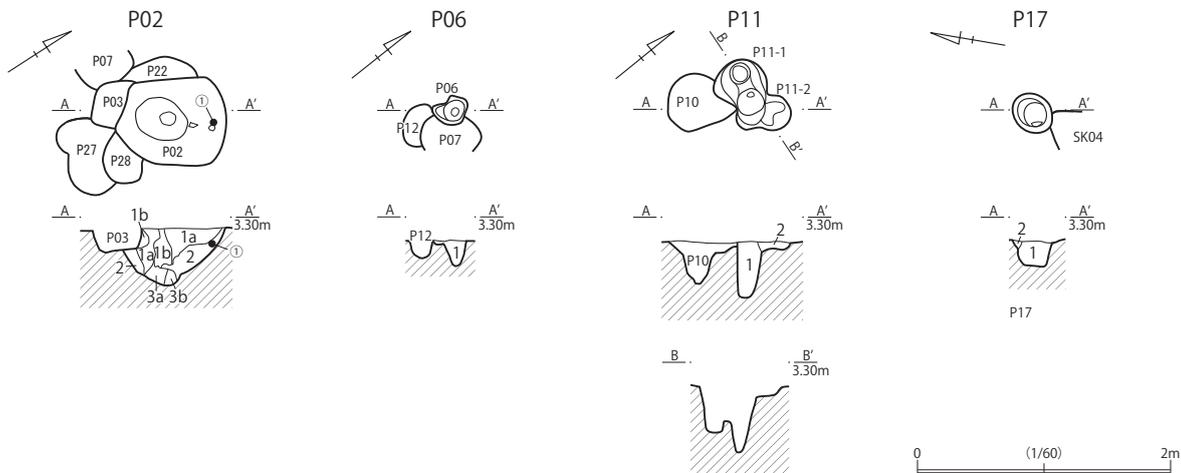
当該期のピットは4基検出された。他の遺構と重複するピットはP02、P06、P11の3基で、P02とP06は重複が著しく柱の建て替えの痕跡と推定される。各ピットの属性は第5表に示した。

遺物 (第18図・第4表・図版5-2)

各ピットから摩滅した土師器破片12点 (18.7g)、須恵器坏・甕5点 (6.3g) が検出された。いずれの土器片も小破片である。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から奈良・平安時代の可能性がある。



第2号ピット

- 1a層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 1b層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に含む。
- 2層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 3a層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に含む。
- 3b層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に含む。

第6号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く、マンガン (ϕ 1~3mm) を全体に含む。

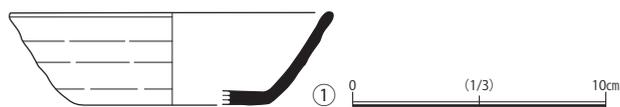
第11号ピット

- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を全体に多量に、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第17号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に含む。
- 2層 褐色土 (10YR4/4) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多量に含む。

第17図 奈良・平安時代のピット



第 18 図 第 2 号ピット出土遺物

第 4 表 第 2 号ピット出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	残存率 (%)	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
18-① 5-2-①	P02	須恵器 坏	口縁～ 底部	10	[12.8] 3.7 [7.6]	19	ロクロ整形・周辺部回転ヘラケズリ	石英・白色粒子・ 白色針状物質・ チャート	良	外-灰オリーブ 内-灰オリーブ	南比企産

第 5 表 奈良・平安時代のピット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	主軸方位	出土遺物
P2	C-4	不整形	0.88	0.7	0.46	N-33° -E	土師器 7 点 (9.7g)、須恵器 4 点 (6.5g)
P6	C-4	不整形	0.26	0.23	0.2	N-54° -E	須恵器 1 点 (4.0g)
P11	C-4	不整形	0.66	0.43	0.45	N-85° -W	土師器 1 点 (1.6g)、須恵器 1 点 (4.0g)
P17	B-4	楕円形	0.35	0.29	0.21	N-31° -E	須恵器 1 点 (1.3g)

第 3 節 中世の遺構と遺物

1 溝状遺構

第 1 号溝状遺構－SD01

遺構 (第 19 図・図版 4-5)

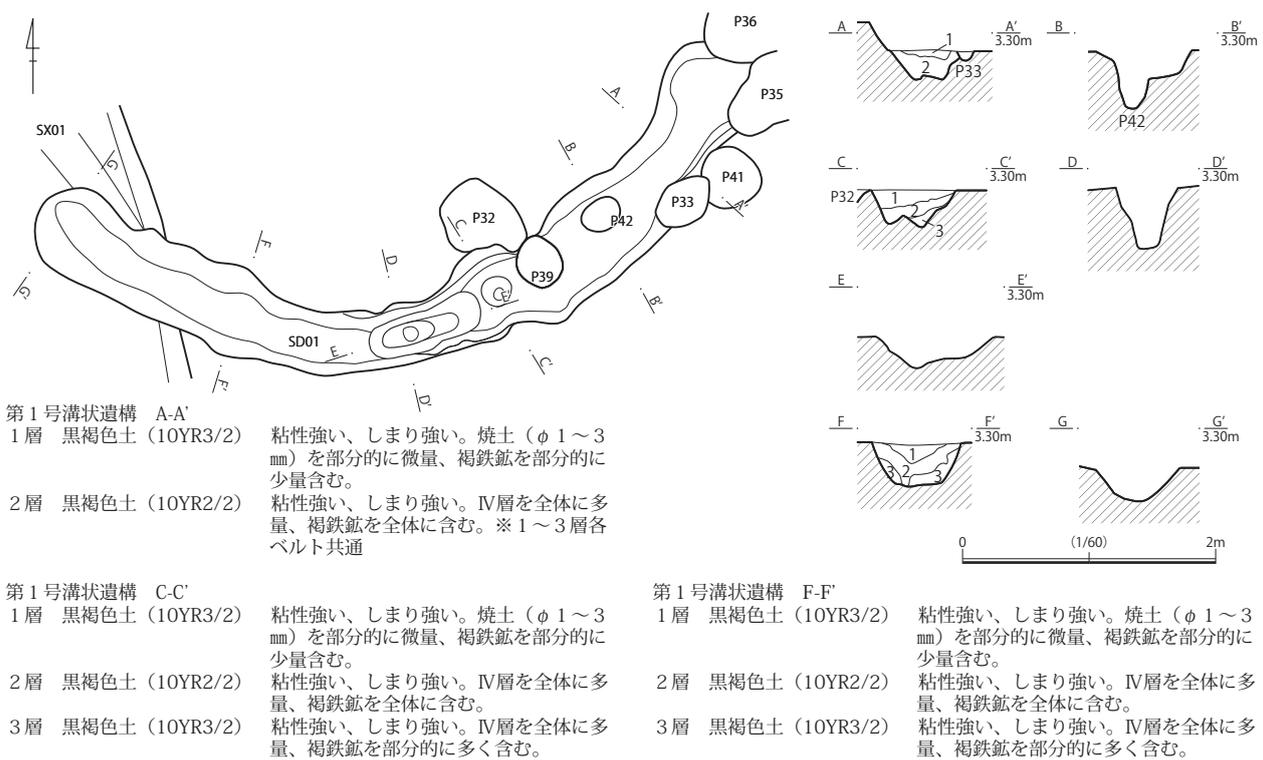
位置：A-4、B-3～5 グリッド。重複関係：P32、33、35、36、39、42 に切られ、第 1 号性格不明遺構を切る。P41 と重複するが先後は不明である。平面形・規模：調査区中央から東壁にかけて検出され、平面形は東西方向に細長くゆるい弧を描き、長さ約 6.7 m、上端幅 0.45～0.75 m、下端幅 0.24～0.54 m、確認面からの深さは約 0.48 m である。覆土：3 箇所覆土を観察したが、IV 層を基層として 3 層に区分された自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：土師器破片 21 点 (70.4g)、須恵器破片 9 点 (58.9g) が出土している。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から中世の可能性がある。



第19図 第1号溝状遺構 (SD01)

2 土坑

第2号土坑—SK02

遺構 (第20図)

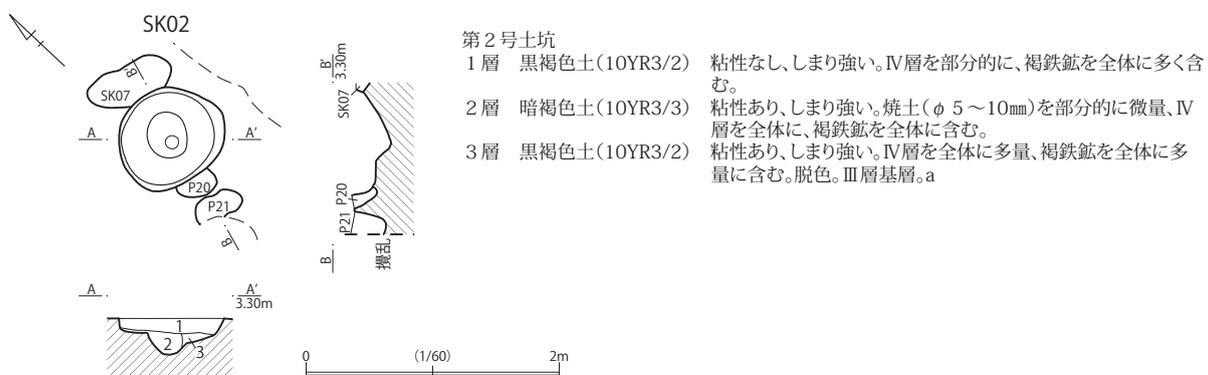
位置：C-4・5グリッド。重複関係：第7号土坑・P20を切る。平面形・規模：調査区南西で検出され、平面形は楕円形で長軸0.88m、短軸0.75m、確認面からの深さは約0.29mである。主軸方向：N-76°-W。覆土：IV層を基層とした自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：摩滅した土師器破片3点(6.0g)が出土している。

時期

覆土の特徴と出土遺物の特徴から中世の可能性がある。



第20図 第2号土坑 (SK02)

第7号土坑－SK07

遺構 (第21図)

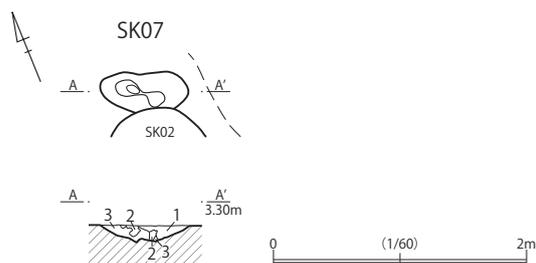
位置：C－4・5グリッド。重複関係：第2号土坑に切られる。平面形・規模：調査区南西で検出され、平面形は長楕円形で長軸0.69m、短軸0.32m、確認面からの深さは約0.13mである。主軸方向：N－68°－W。覆土：IV層を基層とした自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

覆土の特徴から中世の可能性はある。



第7号土坑

- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。 |
| 2層 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。 |
| 3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量に含む。 |

第21図 第7号土坑 (SK07)

第11号土坑－SK11

遺構 (第22図)

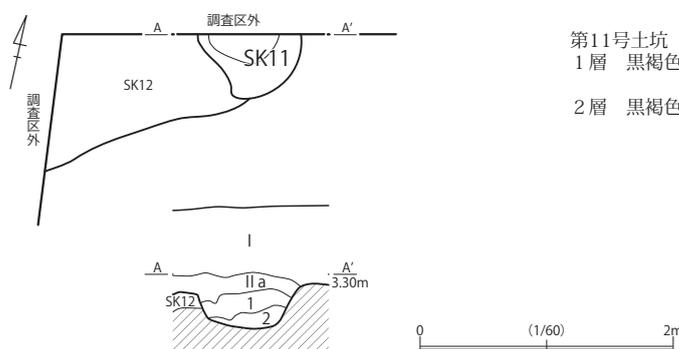
位置：A－3グリッド。重複関係：第12号土坑を切る。平面形・規模：調査区中央北壁で検出され、平面形は不明で長軸0.81m、短軸0.5m以上、確認面からの深さは約0.34mである。主軸方向：不明。覆土：IV層を基層とした自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

覆土の特徴から中世の可能性はある。



第11号土坑

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1層 黒褐色土(10YR2/2) | 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。 |
| 2層 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に含む。 |

第22図 第11号土坑 (SK11)

第 13 号土坑－ SK13

遺構（第 23 図・図版 4－7）

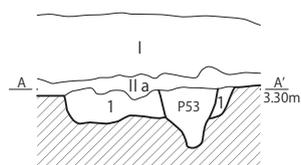
位置：A－2・3 グリッド。重複関係：P53 に切られる。平面形・規模：調査区中央北壁で検出され、面形は隅丸長方形で長軸 1.37 m、短軸 0.5 m 以上、確認面からの深さは約 0.34 m である。主軸方向：N－79°－E。覆土：IV 層基層の単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

覆土の特徴から中世の可能性はある。



第13号土坑
1層 黒色土 (10YR2/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に、褐鉄鉱を部分的に多く含む。

0 (1/60) 2m

第 23 図 第 13 号土坑 (SK13)

第 4 節 近世の遺構と遺物

1 土坑

第 1 号土坑－ SK01

遺構（第 24 図）

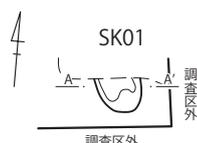
位置：C－5 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：調査区南東隅で検出され、北側をカクラン層に切れ半楕円形を呈している。長軸 0.37 m、短軸 0.27 m、確認面からの深さは約 0.07 m である。主軸方向：N－7°－W。覆土：II 層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第 1 号土坑
1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。II層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く、炭化物(φ 3～5 mm)を部分的に微量に含む。

0 (1/60) 2m

第 24 図 第 1 号土坑 (SK01)

第3号土坑－SK03

遺構 (第25図)

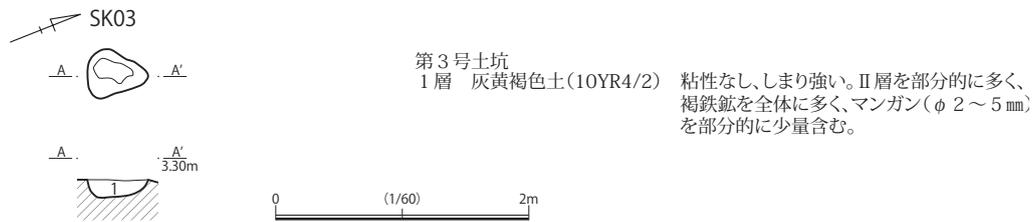
位置：C－4グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：調査区南東側で検出され、平面形は不整形で長軸0.48m、短軸0.39m、確認面からの深さは約0.14mである。主軸方向：N－22°－E。覆土：II層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：出土遺物なし。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第25図 第3号土坑 (SK03)

第6号土坑－SK06

遺構 (第26図)

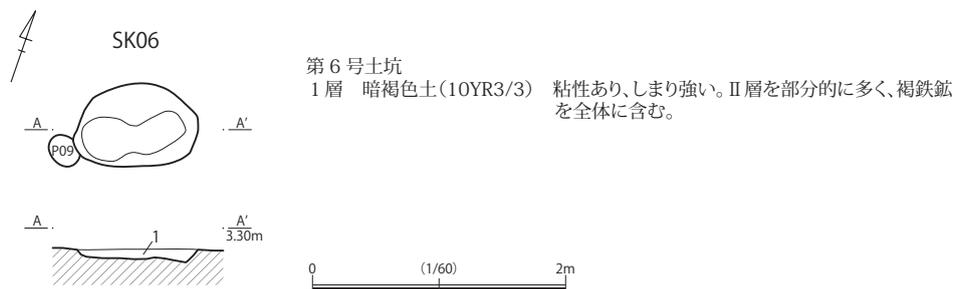
位置：B・C－4グリッド。重複関係：P09を切る。平面形・規模：調査区中央東壁寄りで検出され、平面形は楕円形で長軸0.99m、短軸0.69m、確認面からの深さは約0.11mである。主軸方向：N－54°－E。覆土：II層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：摩滅した土師器破片2点(6.4g)、須恵器甕破片1点(19.7g)が出土しているが、覆土への混在である。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第26図 第6号土坑 (SK06)

第8号土坑－SK08

遺構（第27図）

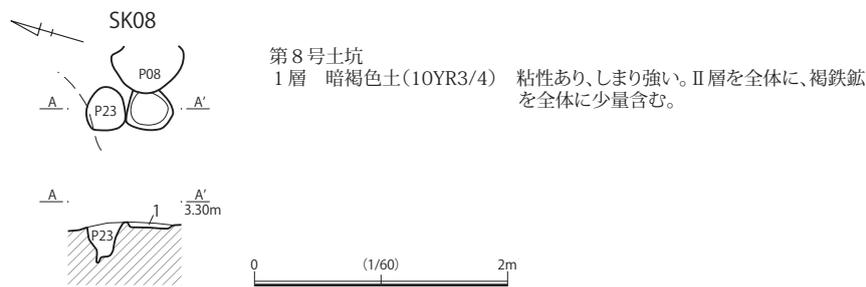
位置：C－4グリッド。重複関係：P08、23を切る。平面形・規模：調査区中央南東寄りで検出され、平面形は隅丸長方形で長軸0.37m、短軸0.36m、確認面からの深さは約0.05mである。主軸方向：N－45°－W。覆土：Ⅱ層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：須恵器坏破片1点（0.9g）が出土しているが、覆土への混在である。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第27図 第8号土坑（SK08）

第9号土坑－SK09

遺構（第28図）

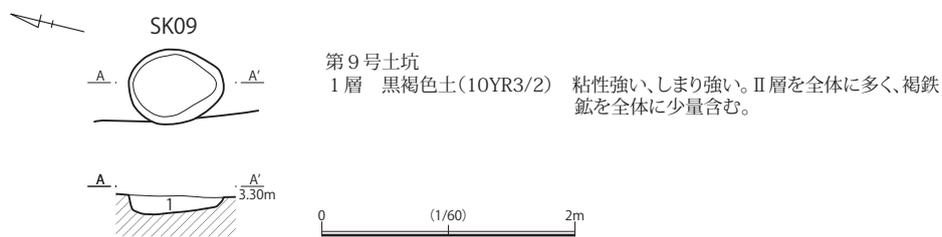
位置：A・B－3グリッド。重複関係：第1号性格不明遺構を切る。平面形・規模：調査区中央北寄りで検出され、平面形は隅丸長方形で長軸0.75m、短軸0.59m、確認面からの深さは約0.15mである。主軸方向：N－14°－W。覆土：Ⅱ層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：土師器は摩滅した破片7点（7.5g）、須恵器甕、坏の破片2点（8.3g）が出土しているが、覆土への二次的な混入である。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第28図 第9号土坑（SK09）

第10号土坑－SK10

遺構（第29図）

位置：A－3グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：調査区中央北寄りで検出され、平面形は楕円形で長軸0.51m、短軸0.35m、確認面からの深さは約0.1mである。主軸方向：N－49°－W。

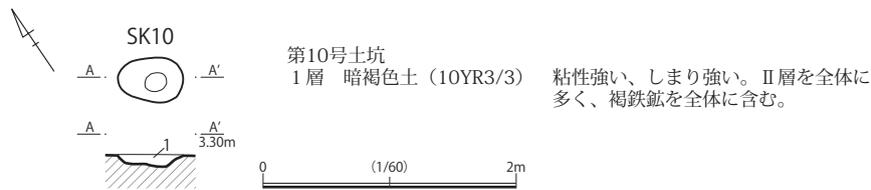
覆土：Ⅱ層を基層とした単一層の自然堆積層が堆積している。

遺物

出土状況：土師器は摩滅した破片1点（0.8g）が出土しているが、覆土への混在である。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第29図 第10号土坑（SK10）

2 ピット

遺構（第30・31図・第6表・図版4－7）

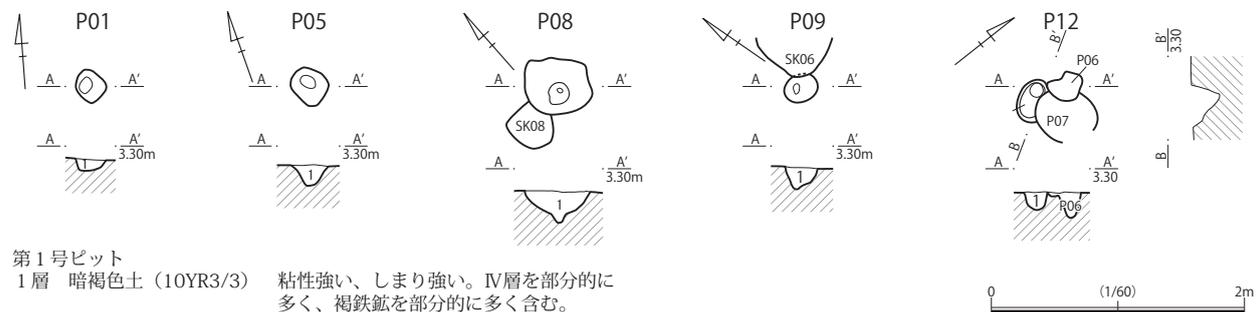
当該期のピットは12基検出された。他の遺構と重複するピットはP08、P09の2基で確認面からの深さは0.3m以下で深くない。各ピットの属性は第6表に示した。

遺物

各ピットから摩滅した土師器破片12点（18.7g）、須恵器坏・甕5点（6.3g）が検出された。いずれの土器片も小破片で覆土への混在である。

時期

覆土の特徴から近世の可能性はある。



第1号ピット
1層 暗褐色土（10YR3/3） 粘性強い、しまり強い。Ⅳ層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に多く含む。

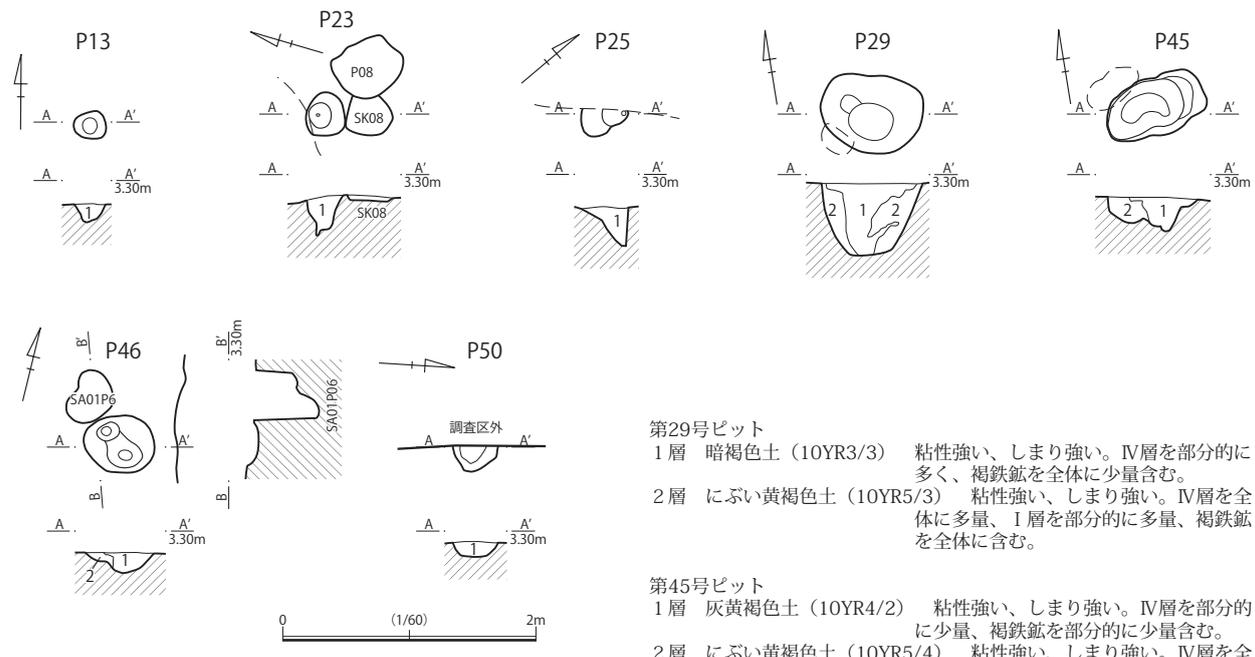
第5号ピット
1層 にぶい黄褐色土（10YR4/3） 粘性なし、しまり強い。褐鉄鉱を全体に少量、Ⅳ層を全体に多く含む。

第8号ピット
1層 にぶい黄褐色土（10YR4/3） 粘性なし、しまり強い。Ⅳ層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く、マンガン（φ3～5mm）を部分的に少量含む。

第9号ピット
1層 暗褐色土（10YR3/3） 粘性なし、しまり強い。Ⅳ層を含む。

第12号ピット
1層 暗褐色土（10YR3/3） 粘性なし、しまり強い。Ⅳ層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第30図 近世のピット（1）



第13号ピット
1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第23号ピット
1層 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に含む。

第25号ピット
1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に含む。

第29号ピット
1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に少量含む。
2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、I層を部分的に多量、褐鉄鉱を全体に含む。

第45号ピット
1層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第46号ピット
1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に、褐鉄鉱を部分的に少量、焼土 (φ 3~5 mm) を部分的に含む。
2層 褐色土 (10YR4/4) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第50号ピット
1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量、焼土 (φ 3~5 mm) を部分的に微量に含む。

第31図 近世のピット (2)

第6表 近世のピット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	主軸方位	出土遺物
P1	A・B-4	隅丸長方形	0.27	0.24	0.1	N-11° -W	須恵器 1点 (3.4 g)
P5	C-4	隅丸長方形	0.29	0.26	0.17	N-32° -W	なし
P8	C-4	不整形	0.52	0.46	0.26	N-59° -W	なし
P9	C-4	長楕円形	0.27	0.22	0.18	N-70° -W	土師器 1点 (2.0 g)
P12	C-4	不明	0.35	0.19 以上	0.14	N-28° -W	須恵器 1点 (2.7 g)
P13	C-4	隅丸長方形	0.25	0.22	0.14	N-74° -E	なし
P23	C-4	長楕円形	0.34	0.3	0.32	N-74° -E	土師器 2点 (3.2 g)
P25	C-4	不明	0.38	0.24 以上	0.31	N-24° -E	なし
P29	A-4	長楕円形	0.8	0.64	0.57	N-58° -W	土師器 7点 (8.4 g)、須恵器 4点 (2.9 g)
P45	C-3	長楕円形	0.81	0.48	0.27	N-74° -E	なし
P46	C-3	楕円形	0.56	0.47	0.17	N-82° -W	土師器 1点 (2.4 g)
P50	B-2	不明	0.36	0.21 以上	0.11	N-3° -W	なし

第5節 時期不明の遺構と遺物

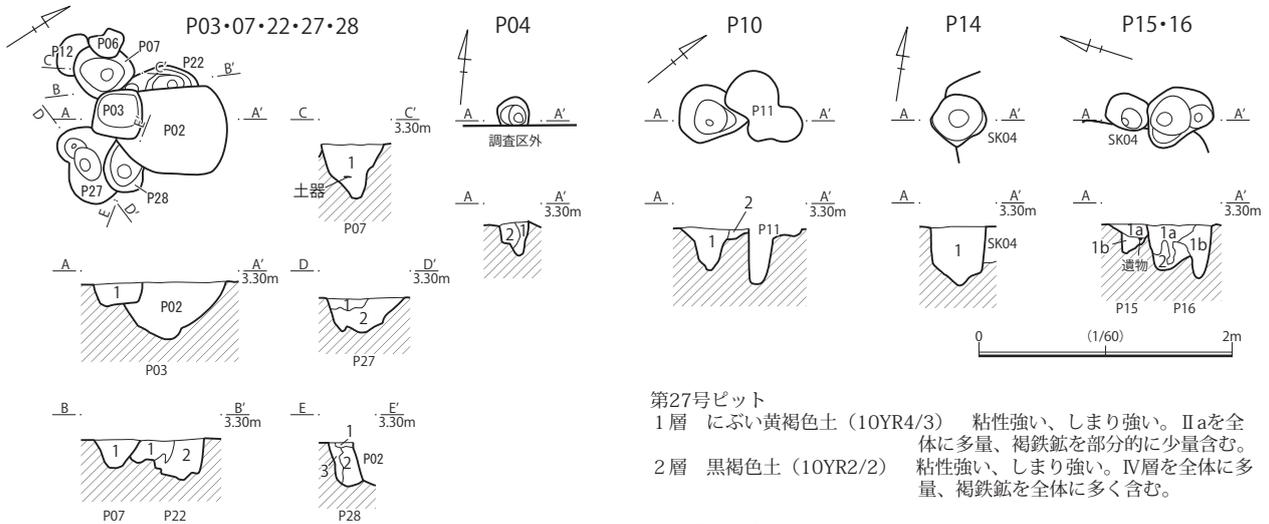
1 ピット

遺構 (第32～35図・第7表)

時期不明のピットは42基検出された。これらのピットで柱穴は27基あり半数以上の割合を占めている。各ピットの属性は第7表に示した。

遺物

各ピットから土師器は坏、甕、ロクロ成形の坏や摩滅した破片35点(103.8g)、須恵器坏・甕26点(163.9g)、土製品1点(15.4g)、石器(砥石)1点(3.4g)、陶器片1点(2.5g)などが検出された。いずれの土器片も小破片で原位置を保っておらず覆土内へ混入である。各遺構の出土遺物は第6表に示した。



第3号ピット

1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く、IV層を部分的に多く、炭化物(φ3～5mm)を部分的に微量に含む。

第4号ピット

1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性なし、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。C-5
2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性なし、しまり強い。褐鉄鉱を全体に多く、IV層を全体に多量に含む。

第7号ピット

1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。炭化物(φ5～10mm)を部分的に少量、IV層を部分的に、褐鉄鉱を全体に多く、マンガン(φ1～3mm)を全体に少量含む。

第10号ピット

1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を部分的に、褐鉄鉱を全体に少量含む。
2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性なし、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第22号ピット

1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に含む。
2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量に、褐鉄鉱を全体に少量含む。黒味強

第27号ピット

1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性強い、しまり強い。IIaを全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第28号ピット

1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性強い、しまり強い。IIa層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
2層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多量に含む。
3層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に含む。

第14号ピット

1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、焼土(φ3～10mm)を部分的に微量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

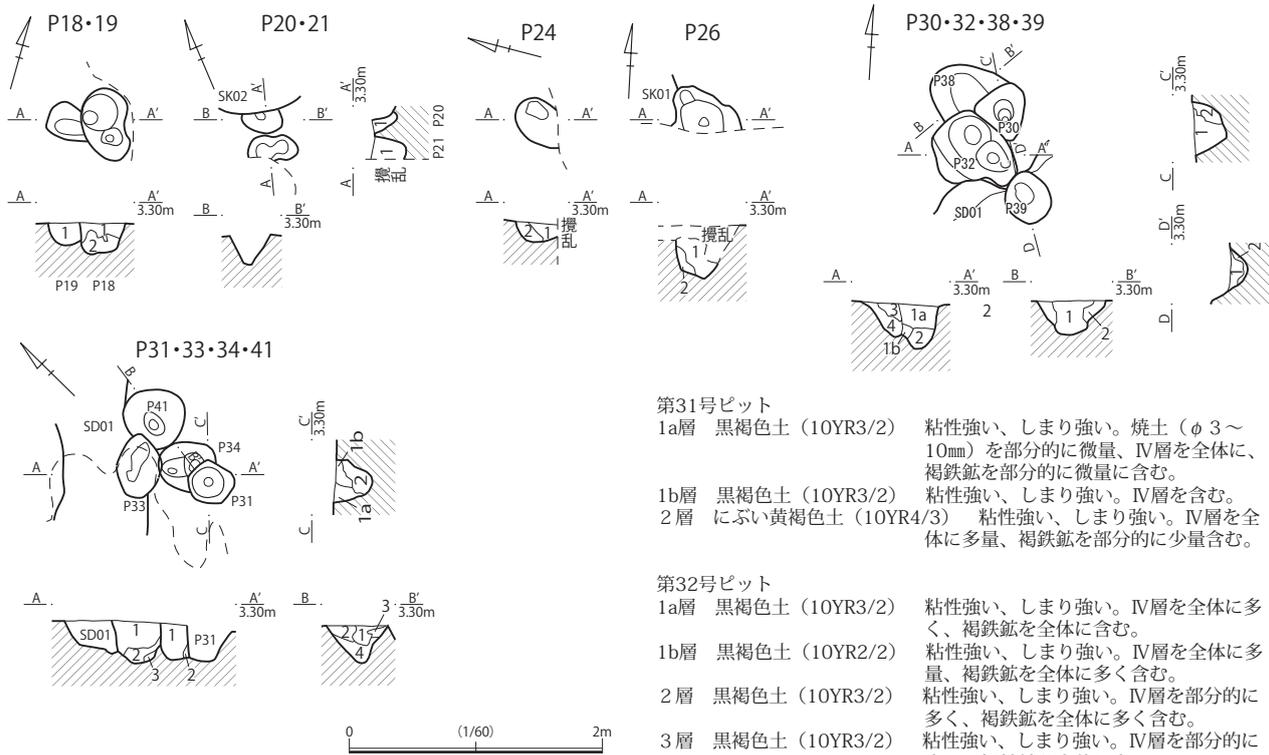
第15号ピット

1a層 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に、褐鉄鉱を全体に少量含む。
1b層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に含む。

第16号ピット

1a層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多く、焼土(φ3～5mm)を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
1b層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に含む。
2層 褐色土 (10YR4/4) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第32図 ピット(1)



第18号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、しまり強い。炭化物 (φ 5~20mm) を部分的に微量、IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第19号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第20号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。焼土 (φ 5~10mm) を部分的に微量、IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。白色

第21号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。焼土 (φ 3~5mm) を部分的に少量、IV層を全体に、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第24号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第26号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に少量含む。

第30号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第31号ピット

- 1a層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。焼土 (φ 3~10mm) を部分的に微量、IV層を全体に、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
- 1b層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第32号ピット

- 1a層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に含む。
- 1b層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を全体に含む。
- 4層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に、褐鉄

第33号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に少量、焼土 (φ 3~10mm) を部分的に微量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。

第34号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。

第38号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量に、褐鉄鉱を全体に多く含む。

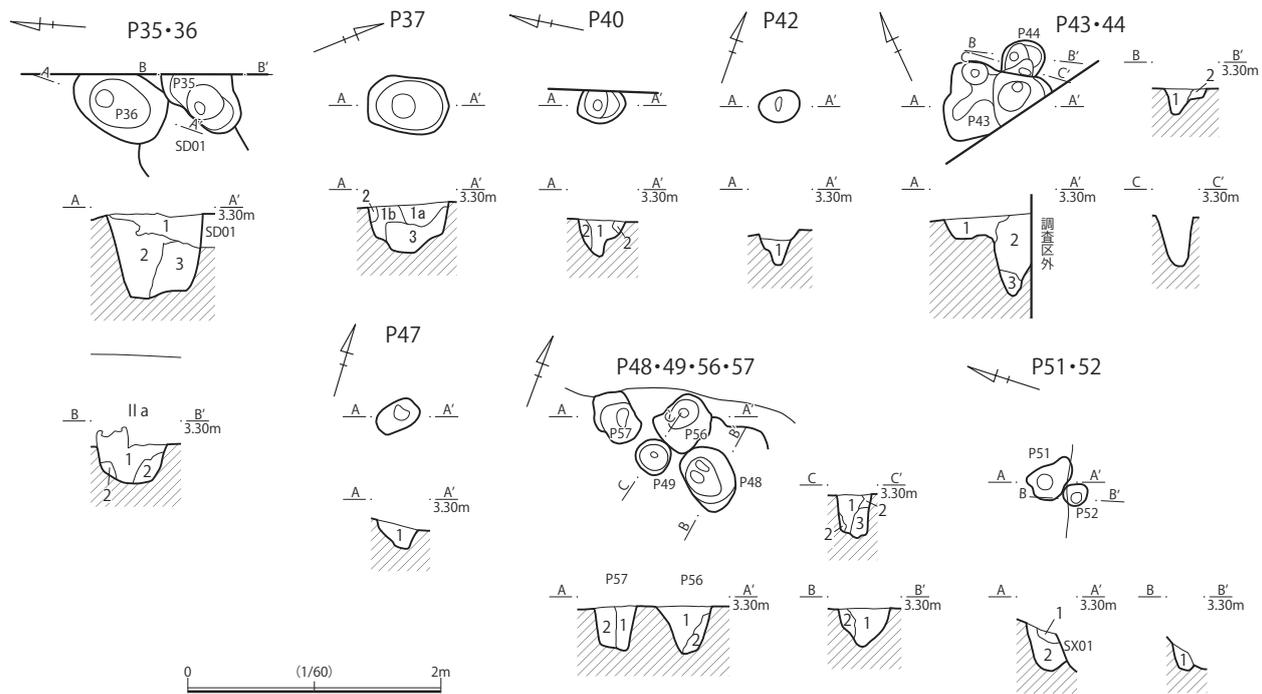
第39号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量に、褐鉄鉱を全体に多く含む。鉄を全体に含む。グレー (シルト質)

第41号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に少量、焼土 (φ 3~5mm) を部分的に微量、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に少量含む。

第33図 ピット (2)



第35号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 灰黄褐色土 (10YR6/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第36号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に微量を含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 3層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量を含む。

第37号ピット

- 1a層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 1b層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に少量、褐鉄鉱を全体に少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 3層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に多量を含む。

第40号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 褐色土 (10YR4/4) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を全体に少量含む。

第42号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を全体に多く含む。

第43号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量に、褐鉄鉱を全体に多く含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に、褐鉄鉱を含む。

第44号ピット

- 1層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第47号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に含む。

第48号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量を含む。

第49号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に含む。褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第51号ピット

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に、焼土 (φ 5~10mm) を部分的に微量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

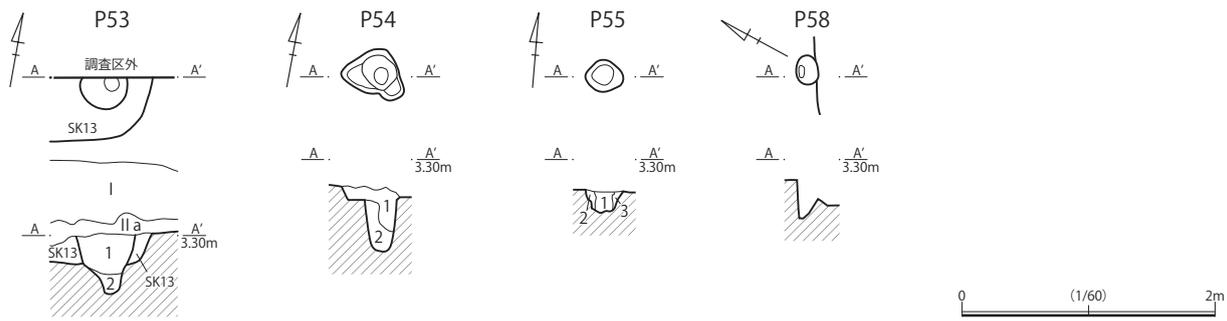
第52号ピット

- 1層 黒色土 (10YR2/1) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に少量、焼土 (φ 3~5mm) を部分的に微量に、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第57号ピット

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。

第34図 ピット (3)



- 第53号ピット
 1層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。焼土 (φ 3~5 mm) を部分的に微量、IV層を全体に少量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量、褐鉄鉱を部分的に微量に含む。
- 第54号ピット
 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。A-3
 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 第55号ピット
 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に少量含む。
 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に多く含む。
 3層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多く、褐鉄鉱を部分的に少量含む。
- 第56号ピット
 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を部分的に多く、褐鉄鉱を部分的に含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い、しまり強い。IV層を全体に多量、焼土 (φ 1~3 mm) を部分的に微量、褐鉄鉱を全体に含む。

第35図 ピット (4)

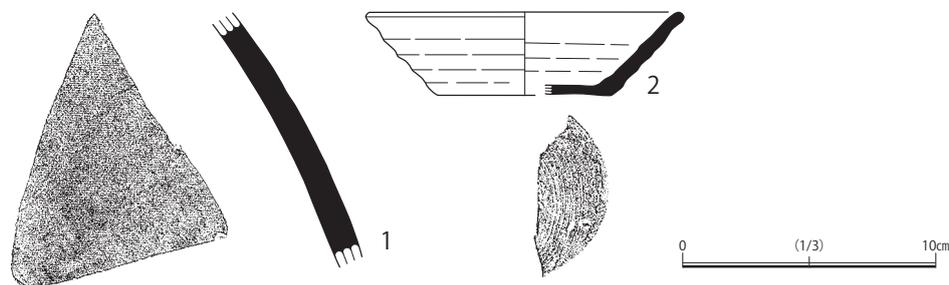
第7表 ピット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	主軸方位	出土遺物
P03	C-4	不明	0.4	0.39	0.19	N-38°-W	土師器 2点 (2.3 g)
P04	C-5	楕円形	0.25	0.23 以上	0.27	N-6°-W	土師器 1点 (1.3 g)
P07	C-4	不整形	0.44	0.42	0.43	N-74°-E	須恵器 1点 (76.2 g)
P10	C-4	不整形	0.52 以上	0.44	0.34	N-75°-W	なし
P14	B-4	隅丸方形	0.4	0.39	0.45	N-37°-E	なし
P15	B-4	長楕円形	0.35	0.27	0.23	N-4°-E	土製品 1点 (15.0 g)
P16	B-4	不整形	0.57	0.41	0.42	N-54°-W	土師器 2点 (10.8 g)、須恵器 3点 (9.2 g)
P18	B-4	不整形	0.59	0.36	0.25	N-22°-W	土師器 1点 (0.7 g)
P19	B-5	不明	0.32	0.28 以上	0.18	N-22°-W	なし
P20	C-4	不明	0.29	0.18 以上	0.24	N-10°-E	須恵器 1点 (1.1 g)、陶器 1点 (2.5 g)
P21	C-4	不整形	0.4	0.2	0.28	N-72°-W	なし
P22	C-4	不整形	0.61 以上	0.18 以上	0.33	N-28°-E	土師器 1点 (9.9 g)、須恵器 1点 (21.8 g)
P24	B-4	長楕円形	0.39	0.33 以上	0.17	N-20°-W	なし
P26	C-4	不整形	0.55	0.38	0.43	N-13°-W	土師器 2点 (8.5 g)
P27	C-4	不明	0.63	0.47 以上	0.28	N-81°-W	土師器 2点 (1.5 g)、須恵器 2点 (7.4 g)
P28	C-4	不明	0.38 以上	0.29 以上	0.35	N-77°-E	なし
P30	B-4	長楕円形	0.39	0.37	0.27	N-37°-E	なし
P31	B-4・5	不整形	0.34	0.33	0.31	N-6°-W	須恵器 1点 (2.9 g)
P32	B-4	不整形	0.7	0.56	0.38	N-53°-W	土師器 3点 (5.5 g)、須恵器 1点 (3.5 g)
P33	B-4	長楕円形	0.51	0.34	0.34	N-49°-E	土師器 3点 (8.3 g)、須恵器 1点 (4.5 g)
P34	B-4・5	不明	0.45	0.39	0.29	N-45°-W	土師器 1点 (2.1 g)
P35	B-5	不整形	0.55	0.5 以上	0.31	N-72°-E	土師器 1点 (10.5 g)
P36	A・B-4・5	長楕円形	0.77	0.52	0.66	N-25°-E	土師器 1点 (1.1 g)、須恵器 1点 (1.8 g)
P37	B-4	長楕円形	0.64	0.44	0.41	N-35°-E	須恵器 2点 (24.2 g)
P38	B-4	不明	0.61	0.37 以上	0.27	N-35°-W	土師器 3点 (6.5 g)、須恵器 2点 (5.8 g)

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	主軸方位	出土遺物
P39	B-4	楕円形	0.42	0.36	0.27	N-14° -W	須恵器 1 点 (1.2 g)
P40	B-5	楕円形	0.38	0.26	0.3	N-78° -E	土師器 1 点 (0.4 g)、須恵器 1 点 (3.4 g)
P41	B-4・5	楕円形	0.48	0.48	0.3	N-75° -W	土師器 1 点 (2.6 g)
P42	B-4	長楕円形	0.33	0.25	0.28	N-57° -E	土師器 1 点 (1.9 g)
P43	D-3	不整形	0.86	0.6	0.66	N-9° -W	なし
P44	D-3	不明	0.33	0.28	0.4	N-36° -E	須恵器 2 点 (3.1 g)
P47	B-3	不整形	0.35	0.22	0.23	N-40° -E	土師器 1 点 (9.9 g)、須恵器 1 点 (0.8 g)
P48	B-2	長楕円形	0.52	0.37	0.31	N-49° -W	須恵器 1 点 (1.5 g)
P49	B-2	楕円形	0.27	0.27	0.35	N-13° -E	土師器 3 点 (2.0 g)
P51	B-2	不整形	0.36	0.26	0.38	N-52° -W	なし
P52	B-2	不整形	0.2	0.17	0.22	N-50° -W	なし
P53	A-3	長楕円形	0.36	0.25 以上	0.47	N-10° -W	なし
P54	A-3	不整形	0.43	0.4	0.52	N-39° -W	土師器 3 点 (9.0 g)
P55	A-3	不整形	0.3	0.25	0.18	N-85° -E	なし
P56	B-2	不整形	0.43	0.37	0.38	N-30° -E	なし
P57	B-2	不整形	0.43	0.31	0.35	N-47° -W	土師器 2 点 (9.0 g)
P58	B-4	楕円形	0.23	0.17	0.3	N-55° -E	なし

2 遺構外出土遺物 (第 36 図・第 8・9 表・図版 5-4)

出土状況: 弥生土器 3 点 (20.3g)、土師器 23 点 (349.7g)、須恵器 19 点 (329.4g)、陶器 3 点 (20.3g)、礫片 1 点 (1.2g) が出土している。B-2 グリッドからは、南比企産の須恵器の坏が出土した。



第 36 図 遺構外出土遺物

第 8 表 遺構外出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	残存率 (%)	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
36-1 5-4-1	表土	須恵器 大甕	胴部	5 以下	-	105	外面平行線タタキ・内面当て石か。外面自然釉	白色粒子・黒色粒子	良	外-灰オリーブ 内-灰オリーブ	
36-2 5-4-2	B-2 グリッド	須恵器 坏	口縁～ 底部	20	[12.3] 3.4 [6.9]	43	右ロクロ整形・底部回転糸切	石英・白色粒子・ 白色針状物質	良	外-黄褐 内-暗灰黄	南比企産

第 9 表 遺構別出土点数・重量一覧

	弥生土器		土師器		須恵器		土製品		石器		陶器		土師質土器		礫・礫片		合計	
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)
SA01			4	9.3	1	1.5											5	10.8
SD01			3	8.7	1	4.4			1	5.4							5	18.5
			6	21.5	4	19.9											10	41.4
			9	32.2	4	34.6											13	66.8
SD02			3	8.0													3	8.0
																	0	0.0

	弥生土器		土師器		須恵器		土製品		石器		陶器		土師質土器		礫・礫片		合計	
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)
SE01			23	95.1	22	225.1					1	11.4	1	6.7	3	31.0	50	369.3
SK01																	0	0.0
SK02			3	6.0													3	6.0
SK03																	0	0.0
SK04			5	43.8													5	43.8
SK06			2	6.4	1	19.7											3	26.1
SK07																	0	0.0
SK08					1	0.9											1	0.9
SK09			7	7.5	2	8.3											9	15.8
SK10			1	0.8													1	0.8
SK11																	0	0.0
SK12			2	20.6													2	20.6
SK13																	0	0.0
SX01	2	710.5	123	1468.5	11	64.9											136	2243.9
P01					1	3.4											1	3.4
P02			10	23.7	5	25.5											15	49.2
P03			2	2.3													2	2.3
P04			1	1.3													1	1.3
P05																	0	0.0
P06					1	4.0											1	4.0
P07					1	76.2											1	76.2
P08																	0	0.0
P09			1	2.0													1	2.0
P10																	0	0.0
P11			1	1.6	1	4.0											2	5.6
P12			1	2.7													1	2.7
P13																	0	0.0
P14																	0	0.0
P15							1	15.4									1	15.4
P16			2	10.8	3	9.2											5	20.0
P17					1	1.3											1	1.3
P18			1	0.7													1	0.7
P19																	0	0.0
P20	1	2.5			1	1.1				1	2.5						3	6.1
P21																	0	0.0
P22			1	9.9	1	21.8											2	31.7
P23			2	3.2													2	3.2
P24																	0	0.0
P25																	0	0.0
P26			2	8.5													2	8.5
P27			2	1.5	2	7.4											4	8.9
P28																	0	0.0
P29			7	8.4	4	2.9											11	11.3
P30																	0	0.0
P31					1	2.9											1	2.9
P32			3	5.5	1	3.5											4	9.0
P33			3	8.3	5												8	8.3
P34			1	2.1													1	2.1
P35			1	10.5													1	10.5
P36			1	1.1	1	1.8											2	2.9
P37					2	24.2											2	24.2
P38			3	6.5	2	5.8			1	3.4							6	15.7
P39					1	1.2											1	1.2
P40			1	0.4	1	3.4											2	3.8
P41			1	2.6													1	2.6
P42			1	1.9													1	1.9
P43																	0	0.0
P44					2	3.1											2	3.1
P45																	0	0.0
P46			1	2.4													1	2.4
P47			1	9.9	1	0.8											2	10.7
P48					1	1.5											1	1.5
P49			3	2.0													3	2.0
P50																	0	0.0
P51																	0	0.0
P52																	0	0.0
P53																	0	0.0
P54			3	9.0													3	9.0
P55																	0	0.0
P56																	0	0.0
P57			2	9.0													2	9.0
遺構外	3	20.3	73	349.7	19	329.4					3	20.3			1	1.2	99	720.9
合計	6	733	322	2226	105	914	1	15	2	9	5	34	1	7	4	32	446	3970.2

第4章 まとめ

今回の前谷遺跡第8次調査では、弥生時代後期の性格不明遺構1基、奈良・平安時代の柵列跡1基、溝状遺構1条、井戸跡1基、土坑2基、ピット4基、中世の溝状遺構1条、土坑4基、近世の土坑6基、ピット12基、時期不明のピット42基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

1 弥生時代後半

第1号性格不明遺構は、調査地中央で検出され、南壁中央部から北側に直進し、北西で西に回ったのち西壁から調査地外に伸びる。断面形状は、垂直に立ち上がる個所もあるが、遺構の北側はなだらかな立ち上がりを見せ、北に伸びる部分は幅が広くなり掘り込みが浅くなるなど一定していない。遺物は、遺構の底から弥生時代の壺形土器が、上層からは比企型坏と土師器甕が出土している。自然流路の可能性もあるが、北西から南西にほぼ直角に曲がっており方形周溝墓の可能性もある。

方形周溝墓については、福田聖氏が目安として「①直線的な辺を持つ方台部、②周溝が全周あるいはコーナーの一つに陸橋部を持つもの、もしくは四隅切れの平面形、③施設としての溝中土坑、④壺の出土比率の高さ、⑤出土土器の完形率の高さ、⑥コーナーや陸橋部際、特定の周溝からの出土、⑦整然とした群構成のあり方、⑧幅が1m以上のもので、深さが50cmに満たないものはほとんどない」の8点を挙げている。この目安を参考にすると、北側の長方形の掘り込みを溝中土坑とするならば③と⑥、⑧、さらに遺構が重複しているため一部であるが①が該当することになる。また④については、遺構底部から壺形土器が出土しているが、⑤のような完形品は出土していない。

今回検出できたのは遺構の一部のみであるため上記の目安をもって方形周溝墓を判断することは困難ではあるが、可能性を考慮しつつ今後の発掘調査の蓄積により明らかにしていきたい。

2 古墳時代

前谷遺跡では古墳時代の周溝状遺構や溝状遺構が確認されているが、今回の調査では同時期の遺構は確認できず、古墳時代の土師器の甕や坏等が出土している。

3 奈良・平安時代から中・近世

奈良・平安時代の遺構は柵列跡1基、溝状遺構1条、井戸跡1基、土坑2基、ピット4基が検出されている。

柵列跡は、調査区南西側で検出され3間分を確認した。対となるピット群が確認できないため柵列跡としている。第2号溝状遺構は調査地北西で検出された。北西側は第1号井戸跡に切られ、南西側は第1号性格不明遺構まで伸びている。第1号井戸跡と接続しているため、排水用の溝の可能性がある。第1号井戸跡は北西隅で検出され、全体の形状を確認できないが平面は楕円形を呈する可能性がある。また長軸の直径は3m以上とみられ、同時期の井戸跡としては前谷遺跡内で一番大きいものとなる。遺物は、土師器・須恵器坏、ロクロ土師器が出土している。

中世の遺構は溝状遺構1条、土坑4基、近世の土坑6基、ピット12基が検出されている。遺物としては土師器と須恵器が出土している。

近世の遺構は土坑6基、ピット12基が検出され、その他に時期不明遺構のピットを42基検出した。ピット群は、調査地南東側に集中して検出されており、内27基は柱穴の可能性はある。多くのピット

トは切り合っており、立て直しが行われた可能性があるが、配列などの規則性は確認できなかった。

3 まとめ

以上のように前谷遺跡第8次調査では弥生時代後期・奈良・平安時代・中世・近世に至る時代の遺構・遺物を確認することができ、前谷遺跡における長期的な土地利用の変遷について明らかにすることができた。特に前谷遺跡北西側では弥生時代後期から古墳時代前期前半の遺構が少ない傾向があり、今回の調査でも第1号性格不明遺構を検出したのみで同様の結果となった。

奈良・平安時代の集落については、これまでの調査により、掘立柱建物や井戸跡、土塔の一部が確認されており、第8次調査でも柵列跡・溝状遺構・井戸跡など同時期の生活の痕跡を確認することができた。近隣の事例では調査地北側の第7次調査で畝状遺構と区画溝が検出され、同時期の畑であった可能性があり、調査地東側の第3次調査では、平安時代の井戸跡3基と土坑37基が確認されている。このように今回の調査地周辺には奈良・平安時代の遺構が集中しており、集落の中心地が調査地付近にあった可能性がある。

今回の調査地は、過去に行った発掘調査地点の中間にあたるため、調査事例の比較検討により、集落の様相をより明らかにできるようになった。今後とも引き続き近隣の事例との比較や発掘調査による資料の蓄積を通して、前谷遺跡における人々の暮らしを復元していきたい。

参考文献

- 今井源吾・辻弘和 2020『前谷遺跡Ⅶ』戸田市文化財調査報告 29、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾 2014『前谷遺跡Ⅱ』戸田市文化財調査報告 19、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾 2015『前谷遺跡Ⅳ』戸田市文化財調査報告 20、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾 2016『鍛冶谷・新田口Ⅹ』戸田市文化財調査報告 24、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾・諸星良一 2015『南原遺跡ⅩⅢ』戸田市文化財調査報告 22、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾・向井互 2015『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅸ』戸田市文化財調査報告 23、戸田市教育委員会
- 岩井聖吾・柏山滋ほか 2016『南原遺跡ⅩⅡ』戸田市文化財調査報告 25、戸田市教育委員会
- 大熊孝 1981「近世初頭の河川改修と浅間山噴火の影響」『アーバンクボタ』No. 19、18～23頁
- 大矢雅彦・高山一ほか 1996『荒川流域地形分類図』建設省関東地方建設局荒川上流工事事務所、53頁
- 籠瀬良明 1981「3 谷地田・台端・自然堤防」『アーバンクボタ』No. 19、10～17頁
- 河内伸夫 1987「蛇行地形の要素について」『地理科学』42巻3号、167～174頁
- 菊地隆男 1981「1 先史時代の利根川水系とその変遷」『アーバンクボタ』No. 19、2～5頁
- 小林謙一 2019『縄文時代の実年代講座』同成社
- 小松原純子 2014「荒川低地の沖積層基盤地形」『地質調査研究報告』第65巻、第7/8号、85～95頁
- 小松原純子・中島礼ほか 2009「沖積層ボーリングコア GS-TKT-1（埼玉県戸田市）の堆積相と堆積物物性」
『堆積学研究』Vol.68, No.1、13～25頁
- 酒井清治 2001「多摩・比企」『土師器と須恵器 普及・季刊考古学』雄山閣、111～113頁
- 竹林洋史・江頭進治 2001「自己形成流路の形成過程と形成水利条件」『土木学会論文集』2001巻677号、
75～86頁
- 田辺晋 2013「東京低地と中川低地における最終氷期最盛期以降の古地理」『地学雑誌』122巻6号
- 戸田市編 1981『戸田市史 資料編一 原始・古代・中世』
- 戸田市編 1986『戸田市史 通史編上』
- 長澤有史 2017『南原遺跡Ⅶ』戸田市文化財調査報告 26、戸田市教育委員会
- 長澤有史 2018『前谷遺跡Ⅴ』戸田市文化財調査報告 27、戸田市教育委員会
- 福田聖 2000『方形周溝墓の再発見』同成社
- 望月幹夫 2001「土師器の編年」『土師器と須恵器 普及・季刊考古学』雄山閣、27～32頁

Summary

Maeya site is located in the central part of downtown Toda city, N35 ° 48 ' 51 " , E139 ° 40 ' 47 " , Saitama Prefecture. It is situated on the slightly elevated area of incised-valley fills in the Arakawa Lowland, 4m above sea level. By excavations of surrounding area and general survey, it was known for settlements of the latter to the end of the Yayoi period to the early first half of the Kofun period, the Heian period to the Medieval period. There were conducted seventh times excavations concerned about property development in the area of buried cultural properties since 1972 and the eighth excavation was conducted by a contractor or surveyor: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. and Toda city board of education performed appreciate direction, coaching, and supervision to them in May to June 2020. It was concerned about the construction work of the multiple dwelling house and total excavation area is about 145.53m² .

In this excavation, we found that each of remains were placed during the Nara to the Heian period, the Medieval period, the early modern times.

In the Heian period, we were found each of settlement remains, a pit line, a ditch, a well, a pit, 4 pillar holes.

In the Heian period to Medieval period, we found each of settlement remains, a ditch, 4 pits.

In the early modern times, we were found each of settlement remains, 6 pits, 12 pillar holes.

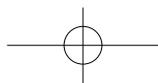
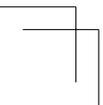
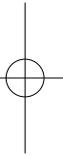
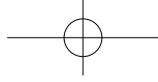
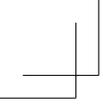
The remains of the time unknown, 42 pillar holes were found in this excavation area. And we were found a remain having unclear functions in this excavation area.

Unearthed relics were Yayoi potteries, Haji potteries-the early first half of the Kofun period, the Heian period, Sueki Potteries-unglazed ware, a clay artifact, a Haji-shitsu pottery, ceramics, stone artifacts-whetstones, pieces of pebbles.

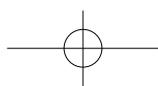
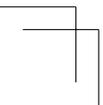
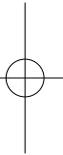
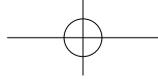
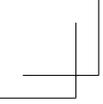
From the above, it can be pointed out that this excavation area was as a part of used for settlements both side of a remain having unclear functions in Heian period. But we didn't find the center of the village at this excavation area.

And it could be said that Maeya site is one of the most important sites for our understanding of human life during ancient times in Toda City.

Translated by Ryoichi MOROHOSHI: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. Department of Cultural Properties.



写真図版





1 調査区完掘状況（上空から）



2 調査区西側完掘状況（南から）



1 調査区東側完掘状況（南東から）



2 第1号井戸跡完掘状況（南東から）



1 第1号性格不明遺構遺物出土状況（南西から）



2 第1号性格不明遺構遺物出土状況（北から）



1 第2号溝状遺構完掘状況（南西から）



2 第2号ピット完掘状況（南西から）



3 第6号ピット（北西から）



4 第11号ピット完掘状況（北から）



5 第1号溝状遺構完掘状況（北から）



6 第1号柵列完掘状況（北西から）



7 第13号土坑・第53号ピット
完掘状況（南から）



8 第17号ピット完掘状況（南西から）



1 第1号井戸跡



2 第2号ピット



3 第1号性格不明遺構



4 遺構外
出土遺物

報告書抄録

ふりがな	まえやいせきはち							
書名	前谷遺跡Ⅷ							
副書名								
シリーズ名	戸田市文化財調査報告							
シリーズ番号	30							
編著者名	今井源吾・諸星良一							
編集機関	戸田市教育委員会							
所在地	〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1 TEL 048(441)1800							
発行年月日	西暦2020(令和2)年12月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		(㎡)	
まえやいせき 前谷遺跡 だいじちようさ 第8次調査	とだしかみとだ 戸田市上戸田 ちようめぼん 2丁目27番5	11224	06- 003、 004、 005	35° 48' 51"	139° 40' 47"	2020.5.8 ~ 2020.6.12	145.53	共同住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前谷遺跡	集落跡	弥生時代	性格不明遺構 1基	弥生土器 土師器 須恵器	
		奈良・平安	柵列跡 1基	土師器	
			溝状遺構 1条	須恵器	
			井戸跡 1基	陶器	
			土坑 2基	礫片	
			ピット 4基		
中世	溝状遺構 1条	土師器			
	土坑 4基	須恵器			
近世	土坑 6基				
	ピット 12基				
時期不明	ピット 42基	土師器 須恵器 土製品 石器 陶器			

要約	<p>本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である前谷遺跡の範囲に属し、JR 埼京線戸田公園駅から北東に約700mの戸田市上戸田2丁目27番5に所在する。</p> <p>前谷遺跡は、利根川・荒川・入間川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）の左岸に分布している微高地に立地している。</p> <p>調査の結果、弥生時代後期の性格不明遺構1基、奈良時代から平安時代では、柵列跡1基、溝状遺構1条、井戸跡1基、土坑2基、ピット4基を検出した。中世では、溝状遺構1条、土坑4基を検出した。近世では、土坑6基、ピット12基を検出した。時期不明遺構はピット42基を検出した。遺物は弥生時代後半の土器、古墳時代の土師器、平安時代の土師器、須恵器が出土した。本調査の遺物は、隣接調査地点と同時期のものであり、生活の場として関連性がある可能性が高い。</p>
----	--

戸田市文化財調査報告 XXX

前谷遺跡Ⅷ

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1
TEL 048(441)1800

印刷 朝日印刷工業株式会社
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67
TEL 027(251)1212

発行日 令和2年12月25日